



Infor LN 販売 販売オーダーユーザ ガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	salessoug (U9845)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	13
販売オーダー処理の概要.....	13
販売オーダーラインデータ.....	13
販売オーダー手順.....	13
販売オーダー - オプション処理.....	13
第2章 手順.....	15
販売オーダー手順.....	15
販売オーダーワークベンチ.....	17
販売オーダー履歴.....	17
履歴ファイルの内容.....	17
履歴ファイルの削除.....	18
第3章 オプション処理.....	21
販売オーダー - オプション処理.....	21
販売オーダーへの追加コストの追加.....	21
販売オーダーのブロックおよびブロック解除.....	21
請求へ発行後の販売データの変更.....	21
販売オーダーの輸出コンプライアンスのチェック.....	22
直送サービスオーダーの作成.....	22
販売オーダーからの輸送オーダーの作成.....	22
製品バリエーションの作成.....	23
特急オーダーの作成.....	23
カタログからの販売オーダーラインの作成.....	23
テンプレートからの販売オーダーの作成.....	24
需要ペギング.....	24
ATP/CTP の処理.....	24
バックオーダーの処理.....	24
構成要素の処理.....	25
分割払オーダーの処理.....	25
販促の処理.....	25

返品オーダの処理.....	26
販売オーダの資材価格.....	26
プロジェクトペギング.....	26
販売オーダの遡及請求.....	26
代替品目の設定および使用.....	26
販売後サービスの指定.....	26
静的クロスドッキングオーダ.....	27
委託在庫の使用.....	27
コピーテンプレートの使用.....	27
顧客支給資材の使用.....	27
価格ステージの使用.....	28
優先順位シミュレーションの使用.....	28
追加コスト.....	28
追加コスト - オーダ基準.....	28
追加コスト - 出荷基準.....	29
販売オーダのブロック.....	32
設定と手順.....	32
信用評価.....	33
マージン管理.....	34
コンプライアンスチェック不合格.....	34
価格ステージ.....	34
請求へ発行後の販売データの変更.....	35
販売オーダデータの変更.....	35
分割払データの変更.....	36
リベートデータの変更.....	37
販売オーダのグローバル貿易コンプライアンス.....	37
販売オーダライン.....	37
構成要素.....	38
輸出コンプライアンスチェック.....	38
販売における製品バリエーション.....	39
製品バリエーションのリンク.....	40
製品バリエーションの再使用.....	40
販売オーダラインおよび販売見積ラインの更新.....	43
製品バリエーションの更新.....	43

製品バリエーションのリンクの解除.....	44
販売オーダーでのテンプレートの使用.....	45
テンプレートに基づいた販売オーダーラインの指定.....	45
テンプレートに基づいた販売オーダーの生成.....	45
販売後サービスに関する販売とサービス間の拡張統合.....	46
マスターデータ.....	46
手順の概要.....	47
備考.....	47
コピーテンプレート.....	47
コピーテンプレートの使用.....	48
オーダー優先順位 (シミュレーション).....	49
第4章 特急オーダー.....	51
特急オーダー.....	51
マスターデータ.....	51
特急オーダー作成.....	51
制限.....	52
特急オーダーと倉庫管理.....	52
第5章 直送.....	53
直送.....	53
直送購買オーダーの修正.....	53
直送購買オーダーの削除.....	53
直送購買オーダーの取消.....	54
直送販売オーダー.....	54
直送販売オーダーと関連するオーダー.....	56
第6章 クロスドッキング.....	57
静的クロスドッキング.....	57
第7章 販売オーダーおよび輸送オーダー.....	59
販売と輸送の統合.....	59
輸送オーダー管理と販売の統合.....	59
輸送請求と販売請求間の統合.....	59
輸送オーダー管理と販売の統合.....	60
販売見積設定.....	60

販売オーダー設定.....	60
販売オーダーから輸送オーダーを生成.....	61
直送販売オーダーについての輸送オーダーの生成.....	62
直送オーダー.....	62
輸送オーダー.....	63
手順.....	64
輸送請求と販売請求の統合.....	64
マスターデータ.....	65
請求方法.....	65
輸送 (請求) 金額の計算.....	66
第8章 バックオーダー.....	69
販売オーダーのバックオーダー処理.....	69
販売.....	69
倉庫管理.....	71
第9章 分割払.....	73
分割払.....	73
分割払タイプ.....	73
分割払手順.....	73
オーダーヘッダに基づく分割払.....	74
分割払のマスターデータおよび手順.....	74
分割払決済.....	74
分割払訂正.....	75
オーダーヘッダに基づく分割払の税.....	77
前払請求書分割払の税.....	77
配分に基づく分割払.....	78
分割払のマスターデータおよび手順.....	78
第10章 返品オーダー.....	81
販売返品オーダー.....	81
付録A	83
販売オーダーの連番.....	83
販売オーダーラインと納入ラインの同期化.....	84
同期化処理をトリガするフィールド.....	84

日付フィールド.....	85
数量フィールド.....	87
価格と値引フィールド.....	87
付録B 用語集.....	91
索引	

文書情報

この文書では、販売オーダーの概要を紹介し、販売オーダーの手続きと機能について説明します。

前提とする知識

このガイドを読む上で、LN ソフトウェアに関する詳細な知識は不要ですが、Infor LN の機能の一般知識があるとこのガイドの理解に役立ちます。

本書の概要

次の表にこのガイドの各章を示します。

章番号	章タイトル	内容
第 1 章	概要	販売オーダーの概要
第 2 章	手順	販売オーダー手順のステップ
第 3 章	オプション処理	販売オーダー手順のその他の機能の選択
第 4 章	特急オーダー	特急オーダーの処理
第 5 章	直送	直送オーダーの処理
第 6 章	クロスドッキング	販売オーダーのクロスドッキングの処理
第 7 章	販売オーダーおよび輸送オーダー	販売オーダーからの輸送オーダーの生成
第 8 章	バックオーダー	販売バックオーダーの処理
第 9 章	分割払	販売オーダーの分割払の処理
第 10 章	返品オーダー	販売返品オーダーの処理

参照

このガイドは、販売オーダーの第 1 の参照先として使用します。このガイドで説明されていない情報を調べるには、次の関連参照先の最新版を使用してください。

- 販売マスタデータユーザガイド U9839 JA
販売マスタデータの設定を理解するために使用します。
- 販売見積ユーザガイド U9841 JA
販売見積手順を理解するために使用します。
- 販売契約ユーザガイド U9844 JA
販売契約手順を理解するために使用します。
- 購買と販売スケジュールユーザガイド U9541 JA
販売スケジュール手順を理解するために使用します。

- マージン管理ユーザガイド U9842 JA
マージン管理手順を理解するために使用します。
- 遡及請求ユーザガイド U9840 JA
遡及手順を理解するために使用します。
- 手数料およびリベートユーザガイド U9843 JA
手数料およびリベート手順を理解するために使用します。
- 販売業者管理在庫ユーザガイド U9501 JA
委託在庫の使用などの販売業者管理在庫機能を理解するために使用します。
- 統計ユーザガイド U9816 JA
統計手順を理解するために使用します。
- キット処理ユーザガイド U9540 JA
構成要素の処理機能を理解するために使用します。
- CRM ユーザガイド U9653 JA
顧客関係管理機能を理解するために使用します。
- 外注ユーザガイド U9361 JA
外注機能を理解するために使用します。
- 条件ユーザガイド U9499 JA
販売条件機能を理解するために使用します。
- プロジェクトペギングユーザガイド U9777 JA
プロジェクトペギング機能を理解するために使用します。
- 需要ペギングユーザガイド U9500 JA
需要ペギング機能を理解するために使用します。
- 価格設定ユーザガイド U9179 JA
価格設定機能を理解するために使用します。
- 資材価格設定ユーザガイド U9865 JA
資材価格設定機能を理解するために使用します。
- 価格ステージユーザガイド
価格ステージの機能を理解するために使用します。
- 遡及請求ユーザガイド U9840 JA
遡及手順を理解するために使用します。

本書の使い方

本書はオンラインヘルプトピックから作成されたものです。そのため、以下の例のようにその他のセクションへの参照が示してあります。

詳細は、「概要」を参照してください。参照セクションを見つけるには、本書の目次または巻末の索引を参照してください。

下線の付いた用語は、用語集の定義へのリンクが付いていることを示しています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義に移動します。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

販売オーダー処理の概要

販売オーダーは、条件に従って品目またはサービスを販売先取引先に販売および納入するために使用されます。販売オーダーは、[契約]、[見積]、[EDI]、[計画]などのさまざまなソースから作成できます。販売では、オーダーの作成および修正ができます。

承認の後、販売オーダーは、特定の価格および値引など、同意された条件に従って品目を納入する法的な義務になります。

販売オーダーラインデータ

販売オーダー手順を実行するには、事前に販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションで販売オーダーパラメータを定義し、販売マスターデータを指定します。

詳細は、次の情報を参照してください: :

- 販売品目データ
- 販売組織データ
- 一般販売データ

販売オーダー手順

販売オーダー手順には、次のステップが含まれます。

1. 販売オーダーの作成と送信
2. 販売済商品の納入
3. 販売済商品の請求
4. 履歴データベースへの納入済販売オーダーの転送

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダー手順 (ページ 15)

販売オーダー - オプション処理

多くの処理は、販売オーダー手順で必ず発生するわけではありませんが、特定の状況では発生します。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダー - オプション処理 (ページ 21)

販売オーダー手順

販売オーダー手順では、標準品目、カスタマイズ品目、および一般品目を販売するための管理手順が完全に網羅されています。

この手順には、次のステップが含まれます。

ステップ 1: 販売オーダーの作成

販売オーダーは、販売オーダー-ライン(tdsls4100m900) セッションで次の方法により作成できます。

- [契約]、[見積]、[EDI] などのさまざまなソースから自動作成
- テンプレートやカタログを基にして作成
- 販売オーダーのコピー (tdsls4201s000) セッションの既存のオーダーからコピー
- マニュアル

ステップ 2: 販売オーダーの承認

販売オーダー手順では、販売オーダーの作成後に販売オーダーを承認するステップが必要です。オーダー手順の活動の実行は、販売オーダーの承認 (tdsls4211m000) セッションでユーザがオーダーを承認したとき、または販売オーダー (tdsls4100m000) セッションや販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで適切なメニューの [承認] をクリックすることによりユーザがオーダーを承認したときに開始できます。

オーダー条件 (tctrm1130m000) セッションまたは販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [承認の使用] チェックボックスがオンの場合、販売オーダーを承認するには事前に顧客が商品を確認する必要があります。

ステップ 3: 販売オーダー確認の出力

オーダーを登録して承認した後、販売オーダーを出力し、オーダー確認として販売先取引先に送信できます。販売オーダー手順では、販売オーダー確認/RMA の出力 (tdsls4401m000) セッションはオプションのセッションです。販売オーダーを出力した後でも、販売オーダーを変更できます。

ステップ 4: 販売オーダーを倉庫管理に発行

販売オーダーについて販売先取引先に通知し、そのオーダーが承認された後、販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) セッションで販売オーダーを倉庫管理に発行できます。この結果、倉庫部署には出荷する必要がある商品について通知されます。

購買オーダーが倉庫に発行されると、倉庫オーダーでいくつかの活動がトリガされ倉庫オーダー (whinh2100m000) セッションで倉庫オーダーの作成が開始されます。倉庫オーダーの活動は販売オーダータイプにリンクされている倉庫オーダータイプによって決まります。

倉庫オーダータイプを販売オーダータイプにリンクするには:

1. 手順別活動 (whinh0106m000) セッションで、活動を倉庫手順にリンクします。
2. 倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションで、倉庫手順を倉庫オーダータイプにリンクします。
3. 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで、倉庫オーダータイプをリンクします。

原価品目およびサービス品目の販売オーダーを倉庫管理に発行する必要はありません。これは、品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの設定によって決まります。直送が倉庫管理に発行されることはありません。

ステップ 5: 販売済商品の納入

販売済品目の納入は、倉庫管理または販売に記録できます。

- 倉庫管理
販売オーダーを倉庫管理に発行した場合、納入手順は、在庫処理 (INH) の出庫手順および出荷手順に含まれています。
倉庫管理で出荷が確認されると、納入/出荷データが販売に報告されます。このデータは、次のセッションで表示できます。
 - 販売オーダーライン - モニタ (tdsls4510m000)
 - 販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000)
- 販売
倉庫管理に発行されていない非在庫品目の場合、納入を販売納入 (tdsls4101m200) セッションで記録できます。

商品の納入後に商品を顧客が承認する必要があるかどうかを指定できます。

商品の納入時に、商品の価格と値引を変更できます。価格および値引をメンテナンスするには、納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションを使用します。

ステップ 6: 販売済商品の請求

販売済品目を請求するには、次のセッションを使用します。

1. 販売オーダー請求ライン (tdsls4106m100) セッションでは、販売オーダー請求ラインの表示、入力、メンテナンスを行って、請求に発行できます。
2. 請求データを請求先取引先に送信する前、または請求に発行する前に請求データをチェックする場合、販売ドラフト請求書の出力 (tdsls4447m000) セッションでドラフト請求書を出力できます。必要であれば、請求データを変更できます。
3. 販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションでは、請求のオーダーデータを発行できます。

請求への発行後は次のようになります。

- 請求で、請求データの状況が [確認済] になります。
 - 販売で、請求ラインの状況が [発行済] になります。
4. 請求バッチ (cisli2100m000) セッションで、請求バッチを作成します。選択した請求データのうち、状況が [確認済] のラインのみが処理されます。
 5. 請求書の構成/出力/転記 (cisli2200m000) セッションの定期請求バッチで請求バッチを処理します。

請求が転記された後は次のようになります。

- 請求で、請求データの状況が [転記済] になります。
- 販売で、請求ラインの状況が [請求済] になります。

納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションを使用すると、請求に発行された販売オーダーラインで、販売請求書の状況が [確認済] または [保留] の価格と値引を変更できます。

ステップ 7: 販売オーダーの処理

販売オーダー手順の最後に、納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションですべての販売オーダーを処理します。処理が済んだ販売オーダーは、通常のデータベースから履歴データベースに転送されます。

販売オーダーワークベンチ

これらのセッションを使用して、内部販売担当者の注意が必要な販売オーダーラインを表示し、そのラインに適切なアクションを実行できます。

- 販売オーダー入力ワークベンチ (tdsls4601m200)
特定の活動がまだ実行されていないオーダーライン、または未確認のバックオーダー数量が存在するオーダーラインを表示します。
- 販売オーダー履行ワークベンチ (tdsls4601m100)
未納入で期日が迫っているオーダーライン、または期日 (計画納期) を過ぎたオーダーラインを表示します。

販売オーダー履歴

販売オーダー履歴を使用すると、販売オーダーおよび分割払オーダーの作成と修正を追跡できます。オリジナルのオーダーが完了した後で、一定の情報を保持しておくことができます。

オーダーの作成、取消、または処理の履歴を登録するには、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー履歴のログ]、[EDI オーダー履歴のログ]、および [実際オーダー納入履歴のログ] チェックボックスをオンにします。

履歴ファイルの内容

オーダー履歴には、次のファイルが含まれています。

- すべての作成済オーダー (ライン) 処理。これらのオーダーおよびオーダーラインはまだ処理されていません。

- すべての請求済オーダー (ライン)。これらは、処理されたオーダーおよびオーダーラインです。オーダーが請求されると、履歴にはオーダーラインの営業利益も記録されます。

履歴ファイルは、次のレコードタイプで構成されます。

- [入力]
オーダーラインが追加、変更、または削除されました。
- [取消]
オーダーラインが取り消されました。
- [取引高]
オーダーラインが納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションで処理済です。

次の表に示すフィールドが、オーダー履歴ファイルを更新するかどうか、また更新する場合のタイミングとその方法を決定します。

販売オーダー

フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴のログ]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダー (tdsls4100m000)
[入力のログ記録レベル]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[実際オーダー納入履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[構成要素履歴を記録]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

販売オーダー - 分割払

フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[入力のログ記録レベル]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

履歴ファイルの削除

販売オーダー/スケジュール履歴のアーカイブおよび削除 (tdsls5201m000) セッションを使用すると、履歴データの合計金額を制限できます。

履歴ファイルは、統計の基準になります。履歴ファイルを削除する前に、統計がすべて更新されていることを確認してください。更新前に履歴ファイルを削除すると、統計を完全に更新することができなくなります。

注意

履歴データは修正できません。これは、参考情報の目的でのみ使用します。

販売オーダ - オプション処理

いくつかの処理は、販売オーダ手順で常に発生するわけではありませんが、オプションで使用できます。

販売オーダへの追加コストの追加

原価品目は、輸送、処理、管理の料金など、付加費用の定義に使用します。これらの原価を販売オーダに追加すれば、顧客に請求する金額を正確にオーダに反映できます。追加コストがある複数の原価品目は、コストセットにまとめれば、1つのオーダに割り当てることができます。

追加コストは、オーダ基準または出荷基準にできます。

- **オーダ基準**
販売オーダの追加コストを計算します。販売オーダの承認後、追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダに配置できます。
- **出荷基準**
販売出荷の追加コストを計算します。出荷の確認後、1つの出荷についてすべての追加コストを含む販売出荷コストオーダが生成されます。

詳細は、次の情報を参照してください:

- 追加コスト - オーダ基準 (ページ 28)
- 追加コスト - 出荷基準 (ページ 29)

販売オーダのブロックおよびブロック解除

販売オーダまたは販売オーダラインをブロックする理由はいくつかあります。オーダは、販売オーダ手順のいかなる時点でも 2 つ以上の理由で保留することができます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダのブロック (ページ 32)

請求へ発行後の販売データの変更

販売請求データは、販売データを請求に発行した後で更新できる場合があります。

請求状況に応じて、次のデータを変更できます。

- 納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションの販売オーダデータ

- 販売オーダー分割払 (tdsls4110m000) セッションの分割払データ
- リベート (tdcms2550m000) セッションのリベートデータ

詳細は、次の情報を参照してください: 請求へ発行後の販売データの変更 (ページ 35)

販売オーダーの輸出コンプライアンスのチェック

グローバル貿易コンプライアンスが輸出文書に適用される場合、販売オーダーが検証され、輸出コンプライアンス情報が有効なものと要求済ライセンスが利用可能なことが確認されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダーのグローバル貿易コンプライアンス (ページ 37)

直送サービスオーダーの作成

販売オーダーまたはサービスオーダー上で、販売商品を直送するかどうかを指定できます。直送の場合、販売オーダーまたはサービスオーダーに基づいて購買オーダーが作成されます。購買元取引先が商品を販売先取引先に直接納入するので、倉庫管理は関係しません。

直送オーダーの生成および処理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- 直送販売オーダー (ページ 54)
- 直送サービスオーダー

販売オーダーからの輸送オーダーの作成

輸送パッケージを使用して、輸送要件を処理できます。販売オーダー入力時に、適切な輸送方法を特定して選択し、販売オーダーから輸送オーダーを生成できます。

輸送と販売の統合には、次のトピックが含まれます。

- 輸送オーダー管理と販売の統合
輸送オーダー管理には、次の 2 種類の計画があります。
 - 概略計画: 長期的な能力計画に使用します。
 - 積荷構築: 出荷と積荷の実際の実行時間計画です。商品を出荷するには、輸送オーダー管理において、特定の期間に移動しなければならない出荷が明確である必要があります。販売から輸送オーダーを作成した場合、出荷と積荷の進捗状況が交換可能になり、輸送オーダー管理と販売との間で情報を共有できます。
- 輸送請求と販売請求間の統合
運送業者に支払わなければならない輸送レートは、輸送費と呼びます。取引先への輸送費の請求は、次の項目に基づいて実行できます。
 - [輸送費]
 - [輸送費 (更新可能)]
 - [クライアントレート]

詳細は、次の情報を参照してください:

- 輸送オーダー管理と販売の統合 (ページ 60)
- 輸送請求と販売請求の統合 (ページ 64)

製品バリエーションの作成

構成可能品目を販売オーダーラインに指定する場合、製品バリエーションの構成またはリンクができます。

品目は、品目 (tcibd0501m000) セッションで [構成可能] チェックボックスがオンになっている場合に構成可能です。

- 品目 (tcibd0501m000) セッションで [デフォルト供給ソース] が [組立] に設定されている [製造] 品目、および [一般] 品目は常に構成可能です。
- 品目 (tcibd0501m000) セッションで [購買スケジュールの使用] チェックボックスがオンになっている [購買] 品目は、構成可能な場合があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売における製品バリエーション (ページ 39)

[デフォルト供給ソース] が [ジョブショップ] に設定されている品目

製品バリエーションを生産するときにプロジェクト管理を使用するか、PCS なしで製品構成 (PCF) を使用するかを決定する必要があります。PCS プロジェクトは、製造処理の計画、生産、および管理に使用されます。その結果、製品バリエーションの構造はプロジェクトにより生成されます。PCS を使用する利点は、詳細な原価の丸め調整とペギング機能が付いた品目が提供されることです。ただし、大量生産環境では多くの場合、詳細な原価の丸め調整は不要です。さらに、PCS を使用すると、プロジェクト原価の計算と、その後のプロジェクト構造の削除に余分な時間がかかります。

PCS を PCF に使用する場合は、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションの [カスタマイズ] チェックボックスをオンにする必要があります。PCS なしで PCF を使用する場合は、[カスタマイズ] チェックボックスをオフにします。

製品コンフィギュレータ (tipcf5120m000) セッションで製品バリエーションを構成したら、販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションを使用して、製品バリエーションの プロジェクト構造 および/または 製品構造 を生成する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダーでの製品モデルの使用方法

特急オーダーの作成

ほとんどの会社では、顧客からの特急要求に対応しています。このような要求は、通常、特別な支払条件と受渡条件を必要とします。特急要求に対応可能かどうかを判定するため、および取引先にオーダーの納期を通知できるようにするために、標準的な特急オーダーの条件を会社に対して定義する必要があります。

特急が依頼される状況には、次の 2 つの場合が考えられます。

- 顧客自身がオーダー入力時に特急納入を依頼
- 顧客から発行済オーダーを特急に変更する依頼を受領

詳細は、次の情報を参照してください: 特急オーダー (ページ 51)

カタログからの販売オーダーラインの作成

カタログに基づいて新規販売オーダーラインを作成できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダーおよび見積でのカタログの使用

テンプレートからの販売オーダの作成

同じ (グループの) 取引先から繰り返し発生する販売オーダには、販売オーダテンプレートを使用できます。オーダテンプレートから、販売オーダまたは販売オーダラインを生成できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダでのテンプレートの使用 (ページ 45)

需要ペギング

需要ペギング機能が会社で使用された場合、販売オーダが作成された時点で在庫が引き当てられます。さらに、仕様がこれらのオーダにリンクされます。

詳細は、次の情報を参照してください: 需要ペギングの概要

ATP/CTP の処理

有効在庫機能は、確約可能在庫 (CTP) と呼ばれる、より広範なオーダ確約技術の一部です。

計画品目の有効在庫/確約可能在庫は、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで定義した有効在庫/確約可能在庫範囲時にチェックできます。品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで計画品目を指定するには、事前に、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションの [オーダシステム] フィールドを [計画] に設定する必要があります。

販売オーダの入力時に品目の有効在庫/確約可能在庫をチェックするには:

1. 計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [販売の確約可能在庫チェック] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンの場合、品目の販売オーダを閉じるときに、確約可能在庫 (CTP) チェックが実行されます。このチェックボックスがオフの場合、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの確約可能在庫関連のパラメータの値に関係なく、確約可能在庫チェックは行われません。
2. 品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで、適用する必要がある有効在庫チェックおよび確約可能在庫チェックのタイプを指定し、チェックの設定を指定します。

フリーの実効在庫 (ATP) と、重要な構成要素と能力 (CTP) を加えてもオーダを履行するには不十分な場合、不足を処理するためのさまざまな可能性が提示されます。販売オーダの不足を処理する方法の 1 つとして、納入スケジュールの提案があります。納入スケジュールは有効在庫処理 (cprrp4800m000) セッションで指定できます。

有効在庫処理 (cprrp4800m000) セッションを使用して、オフラインの有効在庫/確約可能在庫チェックを実行することもできます。たとえば、複数のオーダを書込みフォームに集め、有効在庫処理 (cprrp4800m000) セッションを使用して有効在庫/確約可能在庫チェックを実行できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 有効在庫と確約可能在庫チェックのタイプ

バックオーダの処理

販売オーダ上の商品の一部が入庫した場合や、どの商品も入庫しなかった場合は、バックオーダを作成できます。

バックオーダーは次のモジュールで作成できます。

- 販売管理
バックオーダーは、次のようにして作成できます。
 - 留保数量をマニュアルで入力します。
 - 販売オーダーに作成される直送購買オーダーは、完全納入はされません。
- 在庫処理
出荷数量は、倉庫管理の倉庫オーダーで、次の2つの時点で減らすことができます。
 - 出庫勧告の確認前
 - 出荷の確認前

詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダーのバックオーダー処理 (ページ 69)

構成要素の処理

主品目ではなく構成要素を納入する場合、販売オーダー手順で構成要素の処理方法を定義できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売におけるキット処理の概要

分割払オーダーの処理

取引先への請求は、取引の通常かつ必須の部分です。請求は、多くの方法で実行できます。分割払別の請求によって、オーダー商品が実際に納入される前または後に、合計正味額の一部の金額または何割かの金額の請求書を送信できます。分割払を指定するには、分割払ラインを販売オーダーにリンクします。

詳細は、次の情報を参照してください: 分割払 (ページ 73)

販促の処理

共通情報の下の価格設定では、品目と取引先について販促が定義されています。販促は、販売オーダーや販売オーダーラインで特別値引や無料ギフト (プレミアム) を提供するために使用します。

販売オーダーの品目または取引先に販促が定義されているかどうかのチェックに、販促マトリックスが使用されます。

マトリックス連番が定義されている販促マトリックスで有効な販促が検索されます。販促マトリックスの取得は、価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションのパラメータ設定によって管理されます。

販促マトリックスからの販促の取得のために、関連の販売オーダーのプロパティに一致するマトリックス定義とマトリックス属性を持つ販促マトリックスが検索されます。すべてのマトリックス属性がオーダーのプロパティと一致する必要があります。検出時には、販促マトリックスにリンクされている販促が販売オーダーに適用されます。

注意

販売オーダーや販売オーダーラインを入力する場合、販売オーダー販促データリンク (tdsls4536m000) セッションで適合販促または適用済販促を表示および選択できます。

販促の設定の詳細は、販促マトリックスの設定を参照してください。

返品オーダーの処理

商品を販売オーダーに返品する必要がある場合、返品オーダーを作成できます。返品オーダーにはマイナスの金額のみが記入できます。返品オーダー処理は多くの手順を伴います。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売返品オーダー (ページ 81)

販売オーダーの資材価格

資材価格パラメータ (tcmpr0100m000) セッションの [販売の資材価格設定] チェックボックスがオンの場合、資材価格設定マスターデータの設定後に資材価格情報を取得し、販売オーダーラインの資材価格を計算できます。

リンクされた資材価格情報は、資材価格情報 (tcmpr1600m000) セッションで表示できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 資材価格情報 - 販売オーダー

プロジェクトペギング

販売のプロジェクトペギングには、販売オーダーラインと販売見積ラインのプロジェクト原価のペギングが含まれます。販売オーダーラインまたは見積ラインの品目のプロジェクトペギングが必須の場合は、ペグを指定する必要があります。ペグは、プロジェクト/予算、プロジェクト要素、および/またはプロジェクト活動の組合せです。たとえば、販売オーダーラインの需要がペグされる場合は、販売オーダーラインのプロジェクト、要素、および活動に関する商品が販売され、原価が帳簿に記載されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売におけるプロジェクトペギング

販売オーダーの遡及請求

再交渉により価格変更を販売契約や品目に行う場合、遡及請求機能を使用して、販売オーダーに従い以前に請求した品目を請求し直すことができます。価格差額は、品目数量が 0 でオーダー額に価格差額が含まれる遡及請求された販売オーダーを介して処理されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売での遡及請求

代替品目の設定および使用

ある品目の在庫不足が発生した場合、販売先取引先に代替品目を提案できます。品目が販売中止になる危険を回避するために、まずオリジナル品目の利用可能在庫を消費してから、残りの不足分を代替品目で対応します。

詳細は、次の情報を参照してください: 代替品目

販売後サービスの指定

品目は関連付けられた販売後サービスとともに販売できます。販売見積または終了販売オーダーを使用して、品目後納入に適用可能な販売後サービスを指定できます。

次のアフターサービス関連の設定を品目に指定できます。

- フィジカルブレイクダウンの作成

- [設置グループへのリンク](#)
- [保証の追加](#)
- [サービス契約の生成](#)

アフターサービスのアクションは、これらの設定を基に、納入済アフターサービスライン (品目) がサービスへと処理されるときに実行されます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売後サービスに関する販売とサービス間の拡張統合 (ページ 46)

静的クロスドッキングオーダ

在庫がない既存の販売オーダを処理する場合は、入庫場所から発送確定保管場所に入庫商品をすぐに移動させて出庫できます。この処理を開始するには、[クロスドッキングオーダ](#)を生成する必要があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 静的クロスドッキング (ページ 57)

委託在庫の使用

販売オーダ手順で委託在庫を使用する場合、委託在庫の処理方法を定義できます。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売と調達における委託

コピーテンプレートの使用

LN では、販売オーダ (ライン) のコピー処理でコピーテンプレートを使用するかどうかを指定できます。コピーテンプレートを使用すると、オーダ (ライン) データをコピーする方法を指定できます。

コピーテンプレートには、[コピー例外](#)の標準セットが含まれており、次の手順を実行できます。

- 販売オーダのコピー (tdsls4201s000) セッションで既存のオーダをターゲットオーダにコピーする
- 既存のオーダラインをターゲットオーダラインにコピーする
- 返品オーダ処理でオリジナル伝票の販売オーダラインをターゲットオーダラインにコピーする

詳細は、次の情報を参照してください: コピーテンプレート (ページ 47)

顧客支給資材の使用

顧客または発注先が特定の顧客品目を製造するための資材を支給する場合は、[\[顧客支給資材\]](#)を実装できます。顧客資材の支給は、顧客支給資材を含む品目がある販売オーダラインから開始されます。販売オーダラインには、顧客需要に関するリンクされた[需要ペグ](#)があります。

詳細は、次の情報を参照してください: 販売および調達における顧客支給資材

価格ステージの使用

価格ステージは、価格交渉処理のフェーズに基づいた価格を分類するために使用します。価格が最終ではない限り、価格ステージを使用してオーダー処理の継続を許可したり、この処理の間に実行できる活動を制限したりします。価格ステージにリンクされているブロック定義は、販売オーダーラインのブロックや、シグナルメッセージの表示が必要なフェーズを決定します。

詳細は、次の情報を参照してください: 価格ステージ - 概要

優先順位シミュレーションの使用

オーダー優先順位シミュレーションは、納入のために倉庫で販売オーダーを処理する優先順位を決定する場合に役立ちます。優先順位シミュレーションを使用すると、オーダーに割り当てる在庫により優先順位を計算できます。販売オーダーに実際の優先順位を設定するには、シミュレーションの結果を承認する必要があります。その結果は承認前に修正することができます。

詳細は、次の情報を参照してください: オーダー優先順位 (シミュレーション) (ページ 49)

追加コスト

追加コスト - オーダー基準

販売オーダーまたは販売オーダーラインのオーダー基準の追加コストが計算されます。販売オーダーの承認後、追加コストは、最終品目を記録した後に追加コスト (品目) としてオーダーに配置できます。

オーダー基準の追加コスト手順には、次のステップが含まれます。

ステップ 1: 追加コストの販売オーダーラインの生成

有効な追加コストラインがある追加コストラインがオーダー (ライン) に対して検出された場合、販売オーダーの承認後、これらのコストラインは、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで追加コスト (品目) としてオーダーに追加されます。

これらの販売オーダーラインには、次のことが当てはまります。

- [追加コストライン] チェックボックスはオンになります。
- 追加コスト金額が [金額] フィールドに表示され、[価格] フィールドは空になります。
- 販売先取引先の [追加コスト計算方法] が [ヘッダ基準] の場合、位置番号が販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加コストセットの先頭位置番号] フィールドから取得されます。[ライン基準] 追加コストを持つ販売オーダーラインには標準の位置番号があります。
- [ライン基準] の追加コストがある販売オーダーラインの場合、販売オーダーラインごとの追加コストライン (tdsls4527m000) セッションで販売オーダーラインにリンクされた追加コストラインを表示できます。

ステップ 2: 追加コストライン品目の出庫

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの値に基づいて、原価品目の出庫が倉庫管理または販売で実行されます。

そのため、販売オーダーラインに関して販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) 活動のいずれかを実行する必要があります。

販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の前に販売納入 (tdsls4101m200) が実行されていない場合、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションの実行中は、活動が [実行] に設定されます。そのため、販売納入 (tdsls4101m200) を実行することは任意です。

ステップ 3: 追加コストラインの請求への発行

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] フィールドによって、追加コストラインをどのように請求へ発行する必要があるかが決まります。

ステップ 4: 追加コストラインの処理

納入済販売オーダーは、納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションで追加コストラインと一緒に処理されます。

注意

- [ライン基準] の追加コストラインは特定の販売オーダーラインにリンクされるため、それらはオリジナルの販売オーダーラインと一緒にのみ発行または処理できます。リンクされた一部の追加コストラインで処理の準備が整っていない場合は、販売オーダーラインを処理できません。
- 販売オーダー(ライン)をコピーする場合は、リンクされた追加コストラインは新しいオーダー(ライン)にはコピーされません。追加コストラインをマニュアルでコピーする場合は、原価品目のある通常販売オーダーラインが生成されます。
- 販売オーダーラインが削除または取り消されると、リンクされた追加コストラインも削除または取り消されます。追加コストラインはマニュアルで削除または取り消すこともできます。
- 販売オーダーラインが納入前に分割された場合、追加コストラインは作成された各販売オーダー納入ラインにリンクされます。これらの追加コストラインは、新しい位置番号を取得しますが、連番は0のままです。そのため、追加コストラインは連番レベルでは作成されません。
- 販売バックオーダーラインには追加コストラインをリンクすることができます。ただし、追加コストは実際の出荷済数量ではなく、オーダー数量に基づいて計算されるため、原価が過度に高くなります。これを処理するには、貸方票が必要です。
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] チェックボックスがオンの場合は、分割払に追加コストを含めることができます。
- 顧客承認が実装されている場合、追加コスト機能は使用できません。

追加コスト - 出荷基準

出荷基準の追加コストは販売出荷または出荷ラインについて計算されます。出荷(ライン)の確認後、出荷(ライン)に基づいて販売コストオーダーが生成されます。発生元が[出荷]の販売コストオーダーには、1つの出荷(ライン)の追加コストがすべて含まれています。

注意

- 複数の販売オーダーラインおよび販売スケジュールラインは1つの出荷にリンクできます。

- 出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーおよびオーダー/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。関連するオーダー/スケジュールラインと販売出荷コストオーダーは、まとめて請求に発行できます。

出荷基準の追加コスト手順には、次のステップが含まれます。

ステップ 1: 販売出荷コストオーダーの生成

出荷 (ライン) で有効な追加コストラインのある追加コストセットが検出された場合、出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションで出荷依存および品目依存の追加コストが個別の出荷ラインとして出荷に追加されます。追加出荷原価ラインが倉庫管理で生成されます。出荷が確認されると、販売オーダー (tdsls4100m000) セッションで [出荷] 発生元がある販売オーダーが生成されます。

これらの販売オーダーには、次のことが当てはまります。

- 販売オーダータイプとオーダーシリーズは販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷コストオーダータイプ] フィールドと [出荷コストオーダーシリーズ] フィールドから取得されます。
- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [出荷] フィールドにはこれらのオーダーが自動的に入力されます。
- この販売オーダーに表示できるのは、原価品目とサービス品目のみです。
- 生成された販売オーダーラインの [追加コストライン] チェックボックスはオンになります。
- 追加コスト金額が [金額] フィールドに表示され、販売オーダーラインの [価格] フィールドは空になります。販売納入 (tdsls4101m200) 活動が実行されるまでは [金額] を変更することができます。この後、納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションまたは販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションで納入済額を変更できます。

ステップ 2: 販売出荷コストオーダーの承認

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [出荷基準コストオーダーの自動承認] チェックボックスによって、販売出荷コストオーダーをどのように承認する必要があるかが決まります。

ステップ 3: 追加コストライン品目の出庫

品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [倉庫に発行] チェックボックスの値に基づいて、原価品目の出庫が倉庫管理または販売で実行されます。

そのため、販売オーダーラインに関して販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) または販売納入 (tdsls4101m200) 活動のいずれかを実行する必要があります。

販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) の前に販売納入 (tdsls4101m200) が実行されていない場合、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションの実行中は、活動が [実行] に設定されます。そのため、販売納入 (tdsls4101m200) を実行することは任意です。

ステップ 4: 販売出荷コストオーダーの請求への発行

出荷にリンクされた販売出荷コストオーダーおよびオーダー/スケジュールラインには、共通の出荷 ID が割り当てられます。この ID に基づいて、完了した出荷を顧客に請求できます。販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで [出荷] チェックボックスをオンにする

と、出荷にリンクされた販売出荷コストオーダとオーダ/スケジュールラインが請求にまとめて発行されます。

販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加原価ラインを請求に自動発行] フィールドによって、販売出荷コストオーダをどのように請求に発行する必要があるかが決まります。

出荷 ID は、次のセッションで表示できます。

- 販売出荷コストオーダ
販売オーダ (tdsls4100m000)
- 販売出荷コストオーダライン
リンクオーダラインデータ (tdsls4102s200)
- 販売オーダライン
販売オーダ実際納入ライン (tdsls4106m000)
- 販売スケジュールライン
販売スケジュール実際納入ライン (tdsls3140m000)

ステップ 5: 追加コストラインの処理

販売オーダと販売スケジュールは、納入済販売オーダの処理 (tdsls4223m000) セッションおよび納入済販売スケジュールの処理 (tdsls3223m000) セッションで追加コストラインと一緒に処理されます。

出荷/出荷ラインの追加コストの計算

出荷/出荷ラインの追加コストの計算は、販売先取引先 (tccom4110s000) セッションの [追加コスト計算方法] フィールドの値に基づきます。出荷の場合は、[追加コスト計算方法] を [ヘッダ基準] にする必要があり、出荷ラインの場合は、[ライン基準] にする必要があります。

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [出荷の追加コストを計算] チェックボックスがオンの場合は、販売オーダと販売スケジュールの追加コストが計算されます。

- 販売オーダ
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して追加コストが計算されます。
- 販売先取引先 (tccom4110s000) セッションで [追加コスト計算方法] が [ヘッダ基準] の場合、追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷ラインへのリンクは保存されません。
- [追加コスト計算方法] が [ライン基準] の場合は、追加コストが発生元オーダラインごとに計算され、発生元出荷ラインへのリンクが保存されます。
- 販売スケジュール
取引先 (または品目、あるいは両方) のコストセットを使用して [ヘッダ基準] 追加コストが計算されます。追加コストラインは出荷ごとの合計に基づき、発生元出荷へのリンクは保存されません。
- 契約のコストセットの [ライン基準] 追加コストが計算されます。この計算は、常に、[追加コスト計算方法] とは無関係です。生成された追加コストラインは発生元オーダラインにリンクされます。コストを計算する前に、すべての出荷ラインの数量を追加できます。これは、オーダラインごとに複数の出荷ラインがある在庫内シリアルに適用できます。

梱包票の出力 (whinh4475m000) セッションおよび納品書の出力 (whinh4477m000) セッションでは、ヘッダ基準の追加コストが最初に出力されます。ライン基準の追加コストはリンクされた出荷ラインの下に出力されます。

注意

- 確認済出荷ラインで、追加コストラインの状況が[未計算]の場合は、追加コストが再計算されます。状況が[修正済]の場合は、追加コストを再計算するか、再計算をスキップするかが LN で確認されます。追加コストの再計算後、出荷 (whinh4130m000) セッションの [追加コスト] フィールドは [計算済] に設定されます。
- 出荷の構成 (whinh4231m000) セッションで出荷を構成しているとき、関連する追加コストラインは、選択されたオプションに従って処理される必要があります。
適切なメニューで、次の項目をクリックします。
 - [ライン分割]: 発生元の出荷ラインの状況が [修正済] にリセットされ、追加コストラインが削除されます。発生元ラインの確認中に、追加コストが再計算されます。
 - [出荷へ移動]: 発生元出荷ラインの追加コストが新しい出荷ラインに移動されます。

販売オーダーのブロック

販売では、販売オーダーまたは販売オーダー (構成要素) ラインをブロックできます。

ブロックは次のような理由で発生します。

- 未決済オーダー残高が顧客の与信限度額を超えた
- 取引先への請求が 支払期限超過請求書 である
- 取引先への請求が要注意顧客である
- 経験の乏しいオペレータが販売オーダーを作成
- 取引先への請求の信用再審査が超過している
- 販売オーダーに無効または要注意の郵便番号を含む
- いずれかのオーダーラインの販売マージンを超えている
- オーダーの総マージンが超過している
- 販売オーダーを電子データ交換 (EDI) から受信した
- 販売オーダーが輸出コンプライアンスチェックに失敗した
- オーダーラインの 価格ステージ がオーダー処理の継続を妨げる
- 一般ユーザが定義した特定の理由

ブロックは、ある特定の時点における、おおよその状況を示すものです。オーダー入力時に顧客の請求書の支払期限が切れていても、指定された納期までに支払われている場合があります。

設定と手順

1. 販売オーダーまたは販売オーダー (構成要素) ラインをブロックする理由と理由の分類を保留理由 (tcmcs2110m000) セッションで指定します。
2. 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションでオーダーをブロックするタイミングとブロックする理由を指定します。これらのいずれかの理由のためにオーダーをブロックする必要がある場合、オーダーは生成時に自動的にブロックされます。
3. 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [活動時点でブロック] フィールドで手順を中断するステップを指定します。オーダー (構成要素) ラインをブロックする場合、このオーダー手順は部分的にのみ実行できます。このセッションでブロックステップを指定しない場合、オーダー手順は中断されません。

販売オーダーと販売オーダー (構成要素) ラインは次のセッションでもマニュアルでブロックできます。

- 販売オーダー (tdsls4100m900)
- 販売オーダー (tdsls4100m000)
- 販売オーダーライン (tdsls4101m000)
- 販売オーダーライン構成要素 (tdsls4163m000)

4. ブロックオーダーおよびブロックオーダー (構成要素) ラインは、ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションでマニュアルで発行する必要があります。

販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションでは、オーダーに設定された保留のタイプに基づいて、オーダーのブロック解除権限をユーザに与えるかどうかを指定できます。ユーザが次の作業を行うことができるかどうかを指定できます。

- [信用保留オーダー発行可]
- [マージン保留オーダー発行可]
- [販促チェック保留オーダー発行可]
- [一般保留オーダー発行可]

注意

- ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションでは、ブロックされているすべてのオーダーを表示でき、さらに特定の範囲のオーダーを選択して表示できます。ブロックオーダー (ライン) の範囲の選択基準は、ブロック販売オーダー (ライン) の選択 (tdsls4220m000) セッションで指定します。
- ブロック販売オーダー (ライン) の出力 (tdsls4420m000) セッションを使用して、特定の範囲のブロックオーダー (ライン) を出力します。発行販売オーダー (ライン) の出力 (tdsls0492m000) セッションを使用して、特定の範囲の発行済オーダー (ライン) を出力します。
- ブロック販売オーダー (ライン) 履歴 (tdsls0592m000) セッションでは、これまでにブロックまたは発行された販売オーダーおよび販売オーダー (構成要素) ラインの情報が表示されます。

信用評価

販売オーダーが継続するかどうかは、取引先の信用チェックにより決まります。すべての顧客について、請求先取引先 (tccom4112s000) セッションで信用評価を選択する必要があります。信用評価は、取引先の販売オーダーを処理するとき、および処理後の未決済請求金額が取引先の与信限度額を超えるときに行うアクションを決定します。

販売オーダーが信用チェックのためにブロックされた場合、ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションで次の発行タイプを使用できます。

- [予備発行]
信用チェックのためにオーダー (構成要素) ラインがブロックされたときに発行のソートタイプを選択すると、その理由による基準が引き続き販売オーダーまたはオーダー (構成要素) ラインに当てはまる場合、オーダーは次のフェーズで再度ブロックされます。オーダーが別の理由でブロックされた場合、このオプションを使用してのみオーダーを発行できます。
- [確定発行]
販売オーダー (構成要素) ラインが確定発行済の場合、オーダー (構成要素) ラインが発行され、同じ理由で再度ブロックされることはありません。

注意

- 発行の確定タイプおよび予備タイプの差異は、信用チェックにのみ適用されます。他のブロック理由の場合、発行のこれらのタイプは同じ結果になります。
- [保留理由分類] が [信用チェック] で、オーダ (ライン) が [確定発行済] の場合、発行金額 (販売オーダの正味額合計) はブロック履歴レコードに記録されます。

マージン管理

販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [マージン管理] チェックボックスがオンの場合、オーダラインまたは見積ラインの品目の販売価格が目標価格と大きく異なっていないかどうかチェックされます。

マージン管理パラメータ (tdsls0120m000) セッションで、実行するアクション (ブロック、シグナル、またはログ) を決定できます。目標価格は、販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [マージン管理の目標価格] フィールドで指定します。

注意

マージン管理については、目標価格からの許容偏差を品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの上限マージンと下限マージンで指定できます。

コンプライアンスチェック不合格

ブロック販売オーダ (ライン) (tdsls4520m000) セッションには、輸出コンプライアンスチェックで不合格となったためにブロックされた販売オーダラインが表示され、販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [事前定義保留理由 - 輸出コンプライアンスチェック] フィールドから [保留理由] 値が取得されます。

ブロックされたラインをブロック販売オーダ (ライン) (tdsls4520m000) セッションで解除することはできません。ラインをブロック解除するには、必要なコンプライアンスデータを更新して、輸出コンプライアンスチェックを再実行する必要があります。また、権限のあるユーザは、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションまたはコンプライアンスチェック結果の上書きワークベンチ (tcgtc1610m100) セッションを使用して、輸出ブロックをマニュアルで無効にすることができます。

価格ステージ

価格ステージによってブロックされている販売オーダラインは、ブロック販売オーダ (ライン) (tdsls4520m000) セッションに表示されます。[保留理由] フィールドの値が、価格ステージにリンクされたブロック定義から取得されます。

販売オーダラインは、次のフェーズの間に、ブロック定義のブロックフェーズに基づいてブロックできます。

- オーダ入力
- 倉庫管理への発行
- 出荷の確認

注意

ブロックフェーズが [発行] (倉庫管理) に設定されている場合でも、取引先タイプ別保留理由 (tdsls0193s000) セッションの保留理由および取引先タイプで [倉庫へ発行可能] チェックボックスがオンになっているときには、販売オーダーラインを倉庫管理に発行することができます。この場合、ブロックは関連する出庫オーダーラインに適用されます。

ブロックされたラインをブロック販売オーダ (ライン) (tdsls4520m000) セッションで解除することはできません。ラインのブロックを解除するには、価格ステージを更新する必要があります。新しい価格ステージを基に、オーダ処理を継続するか、または新しいブロックを作成できます。あるいは、シグナルの表示のみを行うことも可能です。

請求へ発行後の販売データの変更

販売請求データは、販売データを請求に発行した後で更新できる場合があります。

請求状況に応じて、次のデータを変更できます。

- 納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションおよび販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションの販売オーダデータ
- 販売オーダ分割払 (tdsls4110m000) セッションの分割払データ
- リベート (tdcms2550m000) セッションのリベートデータ

販売請求データが変更されると、自動的に次のデータが更新されます。

- 請求の請求データ。この結果、販売請求書の状況は、[確認済] になります。
- 取引先オーダ残高

販売オーダデータの変更

請求に発行された販売オーダーラインで、販売請求書の状況が [確認済] または [保留] の場合は、次のセッションを使用して価格と値引を変更できます。

- 納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000)
[オーダーライン] タイプの販売オーダーライン (合計ラインとしても知られる) の場合
- 販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000)
[オーダ/納入ライン] タイプおよび [バックオーダ] タイプの販売オーダーラインの場合

販売請求書の状況は、販売オーダーラインモニタ (tdsls4510m100) セッションおよび販売オーダ実際納入ライン (tdsls4106m000) セッションに表示される [納入後に価格変更可能] チェックボックスに関連しています。このチェックボックスの詳細は、次の表を参照してください。

活動	納入後に使用可能な価格変更	販売請求書の状況
販売で販売オーダーラインを入力する	なし	適用なし
倉庫管理で出荷を確認するか、販売で納入をメンテナンスする	あり	適用なし
販売で請求に発行する	あり	確認済
販売で販売 (請求) データを変更する	あり	確認
請求で請求を構成する	なし	構成済
請求で請求を分解する	あり	保留
販売で販売 (請求) データを変更する	あり	確認
請求で請求を構成する	なし	構成済
請求で請求を出力および転記する	なし	転記済

納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションおよび販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションでは次のフィールドを変更できます。

- [価格]
- [値引 %] / [ライン値引]
- [値引額]
- [値引コード]
- [金額]

分割払データの変更

販売オーダー分割払 (tdsls4110m000) セッションを使用すれば、請求に発行された分割払で、請求書の状況が [確認済] または [保留] のデータを変更できます。

販売オーダー分割払 (tdsls4110m000) セッションでは、次のフィールドを変更できます。

- [記述]
- [金額]
- [割合]
- [支払条件]
- [延滞金利]

■ [支払方法]

注意

請求書が請求で構成されると、決済された分割払ラインに連番が保存されます。請求書が出力されると、分割払ラインに請求書番号が保存されます。この番号は商品の請求番号になります。

リベートデータの変更

リベート (tdcms2550m000) セッションを使用すれば、請求に発行されたリベートで、請求書の状況が [確認済] または [保留] のデータを変更できます。

[リベート金額] フィールドを変更すると、リベート (tdcms2550m000) セッションで [リベート %] フィールドと [増大率 %] フィールドが自動的にゼロに変更されます。

注意

請求書データは、請求に発行する前にチェックすることもできます。この場合、更新を実行する際に請求の請求書の状況に制限されることはありません。

請求に発行する前に請求書データをチェックするには、次のドラフト請求書を出力します。

- 販売ドラフト請求書の出力 (tdsls4447m000) セッションで販売 (分割払) オーダのドラフト請求書を出力します。
- リベートのドラフト請求書の出力 (tdcms2401m000) セッションの設定は次のとおりです。

販売オーダのグローバル貿易コンプライアンス

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [グローバル貿易コンプライアンス] チェックボックスおよびグローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [輸出コンプライアンス] チェックボックスがオンの場合、輸出コンプライアンスが適用される品目の情報が設定できます。

品目がグローバル貿易コンプライアンスの対象となる場合、内部チェックが実行され、輸出コンプライアンス情報が有効であり、必要なライセンスが利用可能であることが確認されます。これは、販売オーダライン入力、契約成果物の有効化、出荷凍結、または確認において行われます。

輸出コンプライアンスについて販売オーダラインのチェックが終わると、成功および失敗データが記録されます。輸出コンプライアンスチェックが失敗した場合、販売オーダラインはブロックされます。

輸出コンプライアンスチェックの伝票の実行を可能にするには、伝票例外を指定します。たとえば、例外は取引先、国、および伝票タイプ別に指定できます。

販売オーダライン

販売オーダラインが販売オーダ - ライン (tdsls4100m900) セッションで指定されると、以下の条件が該当する場合に輸出コンプライアンスチェックが実行されます。

- グローバル貿易コンプライアンスパラメータ (tcgtc0100m000) セッションの [輸出コンプライアンス] タブで [内部チェック] チェックボックスがオンになっている

- オーダタイプが在庫返品、遡及請求、または委託請求で使用されていない
- 倉庫が指定されている
- オーダ数量またはオーダ金額がゼロよりも大きい
- 品目 (tcibd0501m000) セッションで該当品目の [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになっている
- 出荷先住所の国が出荷元住所の国と異なる

これらの条件が該当し、輸出伝票例外 (tcgtc0130m000) セッションで例外が見つからない場合、販売オーダラインに対して内部コンプライアンスチェックが実行されます。この内部チェックでは、輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションで輸出ライセンスが利用可能かつ有効であるかどうか、および品目輸出コンプライアンスデータ (tcgtc0110m000) セッションで輸出コンプライアンスデータが利用可能かつ品目と出荷先の組合わせに有効であるかどうかアプリケーションによって検証されます。

輸出ライセンス (tcgtc0120m000) セッションで輸出ライセンスの [制限数量の適用] チェックボックスまたは [制限価額の適用] チェックボックスがオンの場合、数量および価額の制限が確認されます。このため、棚卸単位における販売オーダラインのオーダ数量、およびオーダ通貨における正味オーダライン金額を使用します。出荷確認時に、輸出ライセンス消費が輸出ライセンス消費 (tcgtc1520m000) セッションで記録されます。

注意

グローバル貿易コンプライアンスが販売オーダラインの品目に適用される場合、そのラインの [貿易コンプライアンスの遵守] チェックボックスがオンになります。

構成要素

販売オーダライン (tdsls4101m000) セッションの [構成要素処理] フィールドが [販売部品表] または [構成要素ライン] に設定されている場合、構成要素が販売オーダラインにリンクします。輸出コンプライアンスチェックは、出荷された構成要素に対してのみ行われ、主品目に対しては行われません。したがって、コンプライアンスチェック結果は構成要素ラインによって記録されます。

これらのラインは、以下のように構成要素がコンプライアンスチェックに失敗するとブロックされます。

- [販売部品表]
オーダラインがブロックされます。いくつかの構成要素がチェックに失敗する場合がありますが、ブロック販売オーダ (ライン) (tdsls4520m000) セッションで生成される販売オーダラインのブロック記録は1つだけです。構成要素ラインのすべての失敗結果が削除されるまで、オーダラインのブロックは解除できません。
- [構成要素ライン]
販売オーダライン構成要素 (tdsls4163m000) セッションでは、オーダラインではなく、オーダ構成要素ラインがブロックされます。

輸出コンプライアンスチェック

このコンプライアンスチェックは、成功または失敗となり、伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) セッションで確認できます。

成功の場合、販売オーダ (構成要素) ラインが保存され、オーダ手順が開始できるようになります。コンプライアンスチェック結果は自動的に承認されます。

失敗の場合、ラインが保存され、ブロックに設定されます。したがって、ラインでは [ブロック] チェックボックスがオンになり、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [事前定義保留理由 - 輸出コンプライアンスチェック] フィールドから取得された [保留理由] とともにラインがブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) に表示されます。

保留理由が [コンプライアンスチェック] になっている場合、ブロック販売オーダー (ライン) (tdsls4520m000) セッションは使用できません。ラインのブロックを解除するには、必要なデータを更新し、輸出コンプライアンスチェックを再度実行するか、権限を持つ人が伝票のコンプライアンスチェック結果 (tcgtc1510m000) またはコンプライアンスチェック結果の上書きワークベンチ (tcgtc1610m100) セッションを使用してマニュアルで輸出ブロックを上書きすることができます。

注意

いくつかの販売セッションの適切なメニューでは、以下のコマンドが使用できます。

- [輸出コンプライアンス情報] は、伝票のグローバル貿易コンプライアンス情報 (tcgtc1100m000) セッションの販売伝票についてグローバル貿易情報を表示およびメンテナンスします。
- [輸出コンプライアンスのチェック] は、輸出コンプライアンスチェックを強制的に実行します。

販売における製品バリエーション

販売で、構成可能品目の製品バリエーションを生成できます。構成可能品目とは、品目 (tcibd0501m000) セッションの [構成可能] チェックボックスがオンになっている品目のことです。

品目 (tcibd0501m000) セッションで [デフォルト供給ソース] が [組立] 品目および [一般] 品目に設定されている [製造] 品目は常に構成可能です。

注意

品目 (tcibd0501m000) セッションでデフォルト供給ソースが [組立] に設定されている品目には、次の内容が適用されます。

- 組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションの [同一構成の多重販売] チェックボックスがオフの場合、販売オーダーラインでオーダー数量が 1 に制限されます。組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションの [同一構成の多重販売] チェックボックスがオンの場合のみ、オーダー数量が 1 より大きい品目を入力でき、同じ組立製品バリエーションを複数販売できます。その結果、複数の組立オーダーが 1 つの販売オーダーラインにリンクされます。製品バリエーションを識別するには、各種組立オーダーおよび販売オーダーラインが同じ仕様を持つ必要があります。これらの品目は組立品目とも呼ばれます。詳細は、次の情報を参照してください: 組立の製品バリエーションを多重販売するにはおよび組立品目
- 組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションの [コンフィギュレータ] チェックボックスによって、品目を製品構成で構成する必要があるか、製品バリエーション - 在庫 (組立) (tiapl3600m000) セッションで自動的に品目の製品バリエーションが生成されるかが決まります。

製品バリエーションのリンク

品目が構成可能品目の場合は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションおよび販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションのライン入力時に品目を即時に構成することを選択できます。販売オーダーラインを保存した後で製品バリエーションを構成するには、[適切なメニュー](#)で [コンフィギュレータ] をクリックして、製品コンフィギュレータ (tipcf5120m000) セッションから製品バリエーションを構成します。

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションおよび販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションの [製品バリエーション] フィールドに既存の製品バリエーションをリンクすることも選択できます。

製品バリエーションは次のように構成または選択できます。

[デフォルト供給 ソース]	販売オーダー/見積 品目	PCF パラメータで 構成	製品バリエーションの 構成	製品バリエーションを 選択するセッション
[ジョブショップ]	一般	適用なし	製品コンフィギュ レータ (tipcf5120m000)	製品バリエーション (tipcf5501m000)
[組立]	一般	オン	製品コンフィギュ レータ (tipcf5120m000)	製品バリエーション - 在庫 (組立) (tiapl3600m000)
[組立]	一般	オフ	適用なし	製品バリエーション - 在庫 (組立) (tiapl3600m000)
[組立]	製造	オン	製品コンフィギュ レータ (tipcf5120m000)	製品バリエーション - 在庫 (組立) (tiapl3600m000)
[組立]	製造	オフ	適用なし	製品バリエーション - 在庫 (組立) (tiapl3600m000)

注意

LN が Product Configuration Management コンフィギュレータに統合される場合、製品バリエーションは、製品コンフィギュレータ (tipcf5120m000) セッションではなく、[CPQ コンフィギュレータ](#)で構成されます。詳細は、次の情報を参照してください: [CPQ コンフィギュレータの設定](#)

製品バリエーションの再使用

同じ販売オーダーまたは見積の異なる販売オーダー/見積ラインは、特定の製品バリエーションを複数回使用できます。

この機能は、以下の設定が適用される場合にのみ使用できます。

- 製品構成パラメータ (tipcf0100m000) セッションの [品目コードを識別] チェックボックスがオンになっている
- 販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションで構成した品目のプロジェクト構造を生成するときに [販売オーダー番号と同一のプロジェクト番号] チェックボックスがオンになっている
- 製品構成パラメータ (tipcf0100m000) セッションの [構成の再使用を許可] チェックボックスがオンになっている

例

一般品目	特徴	オプション
100: 席 X	色	1: 赤
		2: 青
	高さ	1: A
		2: B

構成が保存された後の販売オーダー/見積

オーダー	位置	品目	記述	バリエーション	選択されたオプション
123	5	テキスト	クラスルーム 1a	-	-
	10	100	席 X	10	色 赤、高さ A
	15	100	席 X	11	色 赤、高さ B
	20	テキスト	クラスルーム 1b	-	-
	25	100	席 X	10	色 赤、高さ A
	30	100	席 X	11	色 赤、高さ B

販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションでプロジェクト構造が生成された後の販売オーダー/見積

オーダー	位置	品目	記述	バリエーション	選択されたオプション
	5	テキスト	クラスルーム 1a	-	-
123	10	100-1-A	席 X、色 赤、高さ A	10	色 赤、高さ A
	15	100-1-B	席 X、色 赤、高さ B	11	色 赤、高さ B
	20	テキスト	クラスルーム 1b	-	-
	25	100-1-A	席 X、色 赤、高さ A	10	色 赤、高さ A
	30	100-1-B	席 X、色 赤、高さ B	11	色 赤、高さ B

上記の例で適用されたチェック

- オーダライン 15 が構成された後に、同じ品目がライン 10 で検出されます。位置 10 (123/100-1-A) の新しい品目コードとライン 15 (123/100-1-B) の品目コードは異なります。そのため、オーダライン 15 は承認されます。
- オーダライン 25 が構成された後に、同じオプションの同じ品目がライン 10 で検出されます。位置 10 の新しい品目コードとライン 25 の品目コードは同じで、123/100-1-A です。[構成の再使用を許可] チェックボックスがオンの場合のみオーダライン 25 が承認されます。

位置 10 と 25 の品目コードは同じです。品目 (tcibd0501m000) セッションで、品目 123/100-1-A の [製品バリエーション] は 10 になっています。

重要

一般品目 - データ生成の設定 (tipcf3101m000) セッションは予測結果に影響します。

- この例では、このセッションの設定が使用されています。選択されたオプションは生成された品目コードの一部になっています。別のオプションを選択する場合、異なるカスタマイズ品目コードが生成されます。
- 一般品目 - データ生成の設定 (tipcf3101m000) セッションでデータ生成の設定が指定されていない場合、カスタマイズ品目コードはオーダ番号 - 品目コードに基づいており、123-100 となります。この場合、位置 15 にエラーメッセージが表示されます。カスタマイズ品目コードは位置 10 と同じですが、オプションは異なります。

販売オーダーラインおよび販売見積ラインの更新

既存の製品バリエーションを販売オーダー/見積ラインに挿入すると、販売オーダー/見積ラインで次のフィールドが更新されます。

[有効化コード]	[デフォルト供給ソース] が [組立] に設定され、組立計画 (APL) で製品バリエーションにリンクされた有効化コードを持つ品目の場合
[倉庫]	[デフォルト供給ソース] が [組立] に設定されている [製造] 品目の場合のみ
[ワークセンタ]	[デフォルト供給ソース] が [組立] に設定されている [一般] 品目の場合のみ
[販売価格]	-
[シリアル番号]	リンクされた組立オーダーが連続する場合に更新されます。この番号がないと、販売オーダーを倉庫管理に発行できません。
[標準原価]	次のいずれかの作業を行うと更新されます。 ■ 製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションで、[計算] をクリックします。 ■ 組立オーダーを維持します。

注意

[デフォルト供給ソース] が [組立] に設定された [製造] 品目で、組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションの [同一構成の多重販売] チェックボックスがオンになっている場合、複数の組立オーダーを 1 つの販売オーダーラインにリンクすることができます。これは販売オーダーラインをシリアル番号で更新できないことを意味します。そのため、倉庫管理により ロットとシリアルセット にシリアル番号が入力されます。これを表示するには販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000) セッションで [ロットとシリアルセット] ボタンをクリックします。このセットを使用して、複数のシリアル番号が納入ラインにリンクされます。

製品バリエーションの更新

販売オーダー/見積ラインで [計画済納期] または [オーダー日付] / [見積日付] を変更すると、リンクされた製品バリエーションで次のフィールドが更新されます。

販売オーダー/見積ラインの変更されるフィールド	製品バリエーションの更新されるフィールド	更新の制限事項
-------------------------	----------------------	---------

[計画済納期]	[要求オフライン日]	なし
[計画済納期]	[計画オフライン日]	■ 製品バリエーションの状況が [オープン] である ■ 組立オーダが存在しません。
[計画済納期]	[製品構成日]	■ 製品バリエーションの状況が [オープン] である ■ 組立オーダが存在しません。 ■ 販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションで [構成日 (PCS)] が [納期] に設定されている ■ 製品バリエーションが製品構成によって構成されていない
[オーダ日付] / [見積日付]	[製品構成日]	■ 製品バリエーションの状況が [オープン] である ■ 組立オーダが存在しません。 ■ 販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションで [構成日 (PCS)] が [オーダ日付] に設定されている ■ 製品バリエーションが製品構成によって構成されていない

注意

[デフォルト供給ソース] [組立] に設定されている [製造] 品目で、組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションの [同一構成の多重販売] チェックボックスがオンになっている場合、複数の組立オーダを 1 つの販売オーダラインにリンクすることができます。そのため、販売オーダラインに複数の計画納期を適用できます。その結果、日付の変更は製品バリエーションに更新できません。

製品バリエーションのリンクの解除

販売オーダ/見積ラインでは、製品バリエーションのリンクを解除できます。

リンクを解除しても製品バリエーションは削除されず、製品バリエーション上および組立オーダ上 (該当する場合) の販売オーダまたは見積への参照のみが削除されます。製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションと製品バリエーション (tipcf5501m000) セッションでは、[参照タイプ] が、[販売オーダ]、[販売見積]、または [標準バリエーション] のままになります。

リンクが解除された製品バリエーションは、別の販売オーダ/見積で再使用できます。

注意

[デフォルト供給ソース] が [組立] に設定されている品目には、次の内容が適用されます。

- 組立計画パラメータ (tiapl0100s000) セッションの [売残り製品バリエーションの組立オーダーを使用] チェックボックスにより、製品バリエーションのリンクをいつ解除可能かが決まります。
- [製造] 品目が倉庫検査時に不合格になった場合、製品バリエーションの状況が [取消済] になります。その後、リンクされている販売オーダーラインを取り消したり、販売オーダーラインから製品バリエーションを削除したりすることができます。必要な場合は、別の製品バリエーションをリンクできます。

販売オーダーでのテンプレートの使用

同じ (グループの) 取引先から繰り返し発生する販売オーダーには、販売オーダーテンプレートを使用できます。

販売オーダー (tdsls4100m900) セッションでは、テンプレートを基に販売オーダー指定できます。顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションでは、選択した取引先用のテンプレートに基づいて販売オーダーを生成できます。

テンプレートに基づいた販売オーダーラインの指定

テンプレートに基づいて販売オーダーラインを指定するには、次の操作を実行します。

1. 1 つまたは複数の販売オーダーテンプレートを指定します。詳細は、次の情報を参照してください: 販売オーダーテンプレート
2. 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで、販売オーダーヘッダデータを指定します。
3. [ライン] タブの適切なメニューで、[販売オーダーテンプレート] をクリックします。
4. その取引先に使用できるテンプレートの数が確認されます。利用可能なテンプレートが 1 つしかない場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始されます。より多くのテンプレートが利用可能な場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始されます。
5.
 - 販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始された場合は、[全品目ラインのコピー] または [選択ラインのコピー] をクリックして、すべての品目ラインまたは選択した品目ラインを販売オーダーにコピーできます。
 - 販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始された場合は、テンプレートを選択し、[全品目ラインのコピー] をクリックして、すべての品目を販売オーダーにコピーできます。特定の品目ラインを選択するには、テンプレートをダブルクリックします。開始された販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションで、ラインを選択することができます。

テンプレートに基づいた販売オーダーの生成

テンプレートに基づいて販売オーダーを生成するには

1. 1 つまたは複数の販売オーダーテンプレートを指定します。

2. 顧客 360 (tdsmi1500m000) セッションで、[販売オーダーテンプレート] をクリックします。
3. その取引先に使用できるテンプレートの数が確認されます。利用可能なテンプレートが 1 つしかない場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションが開始されます。より多くのテンプレートが利用可能な場合は、販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションが開始されます。
4. これらのセッションの適切なメニューで [販売オーダーの生成] を選択します。選択した取引先のテンプレートに基づいて販売オーダーが生成されます。

注意

販売先取引先が販売オーダーテンプレート (tdsls2605m000) セッションまたは販売オーダーテンプレート (tdsls2505m000) セッションで指定された場合、テンプレートだけでなく、これらのセッションから販売オーダーを生成することも可能です。

販売後サービスに関する販売とサービス間の拡張統合

品目は関連付けられた販売後サービスとともに販売できます。販売見積または終了販売オーダーを使用して、品目後納入に適用可能な販売後サービスを指定できます。

次の販売後サービス関連の設定を品目に指定できます。

- フィジカルブレイクダウンの作成
- 設置グループへのリンク
- 保証の追加
- サービス契約の生成

販売後サービスのアクションは、これらの設定を基に、納入済販売後サービスライン (品目) がサービスへと処理されるときに実行されます。

マスターデータ

拡張統合を設定するには:

- 販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションの [拡張サービス統合] チェックボックスをオンにします。
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [拡張サービス統合] チェックボックスをオンにします。
- 品目 - サービス (tsmdm2100m000) セッションで、品目の [納入後にサービスに処理] チェックボックスをオンにします。
- オプションで、オーダータイプ (tdsls0694m000) セッションに、そのオーダータイプについての活動として販売後サービスラインの処理 (tstdm2250m000) を追加します。この活動について [自動] チェックボックスがオンの場合、販売後サービスラインは自動的にサービスで処理されます。

手順の概要

1. 販売見積 (tdsls1600m000) セッションの販売見積または販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの販売オーダーを指定および保存すると、販売後サービス (tstdm5600m000) セッションの品目に販売後サービスデータが生成されます。
2. 販売後サービス (tstdm5600m000) セッションでデフォルトの販売後サービスデータを表示および修正するには、販売見積 (tdsls1600m000) または販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの適切なメニューにある [販売後サービス] をクリックします。
3. 販売後サービスライン (品目) の [処理状況] が [納入済] に設定されている場合、そのラインは販売後サービスラインの処理 (tstdm2250m000) セッションを使用してサービスで処理できます。このセッションがオーダータイプに自動化された活動としてリンクされている場合、処理が自動的に実行されます。
4. 販売済品目に指定した販売後サービスのアクションがサービスで実行されます。サービスで生成され、販売済品目にリンクされた販売後サービスデータを表示するには、処理済の販売後サービスラインを選択して、販売後サービス (tstdm5600m000) セッションの適切なメニューの [結果] をクリックします。

販売後サービス倉庫 (tstdm5600m100) セッションを使用すれば、販売見積とオーダー、および関連する状況について、販売後サービスデータの概要を確認できます。

備考

- 品目は販売見積に基づいて納入できないため、販売後サービスアクションは販売見積について実行できません。ただし、販売見積の販売後サービスデータは、販売見積が販売見積の処理 (tdsls1200m000) セッションのオーダーに対して処理されるときに、販売オーダーへコピーできます。
- 販売オーダーラインに構成要素が含まれている場合、構成要素ごとに分割された販売後サービスラインが生成されます。
- 販売オーダーラインにロットとシリアルセットが含まれる場合、このセットが販売後サービスラインにコピーされます。販売後サービスラインがサービスで処理される場合、販売後サービスアクションが実行される個別の品目ごとに、ロットとシリアルセットが分割されます。
- 販売オーダーラインに部分納入を適用できる場合は、リンク済販売後サービスラインが、生成された初回請求ラインによって [納入済] に設定されます。以降の納入/請求ラインでは、追加の販売後サービスラインが生成されます。
- 最終納入を完了したが、販売オーダーラインに納入する数量がまだある場合、販売バックオーダーを使用して新規の販売後サービスラインを生成します。

コピーテンプレート

販売オーダー(ライン)をコピーするときは、コピーテンプレートを使用できます。コピーテンプレートは、オーダー(ライン) データのコピー方法を指定するために使用されます。テンプレートには、コピー例外の標準セットが含まれています。

コピーテンプレートは以下のコピーを行うときに使用できます。

- 販売オーダーのコピー (tdsls4201s000) セッションで既存のオーダーをターゲットオーダーにコピーする。
- 既存の販売オーダーラインをターゲットオーダーラインにコピーする。
- 返品オーダー処理でオリジナル伝票の販売オーダーラインをターゲットオーダーラインにコピーする。

コピー例外は、販売オーダーヘッダまたは販売オーダーラインのフィールドです。コピー例外として指定されていないフィールドは、ソースオーダー (ライン) からターゲットオーダー (ライン) に自動的にコピーされます。

販売オーダーヘッダ

販売オーダーヘッダフィールドの場合は、次のコピーアクションを指定できます。

- [プロンプト]
選択されたフィールドは、販売オーダーのコピー - プロンプト (tdsls4201s100) セッションでマニュアルで指定できます。デフォルト値はコピー元オーダーから取得されます。
- [デフォルト取得]
標準デフォルトロジックに基づいてデフォルト値が取得されます。
- [コピー元...]
ターゲット販売オーダーにコピーする必要がある日付。これは、日付フィールドに対してのみ使用できます。

販売オーダーライン

販売オーダーラインフィールドの場合は、次のコピーアクションを指定できます。

- [デフォルト取得]
デフォルト値が取得されます。
- [コピー元...]
ターゲット販売オーダーラインにコピーする必要がある数量。これは、[オーダー数量] フィールドに対してのみ使用できます。
- [オリジナルからコピー]
ソースオーダーにリンクされた構成要素は、ターゲットオーダーラインにコピーされます。これは、[構成要素ライン] に対してのみ使用できます。

コピーテンプレートの使用

1. 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [コピーテンプレートのプロンプト] チェックボックスをオンにする。
2. 販売オーダーコピーテンプレート - 例外 (tdsls4690m000) セッションで次の作業を行います。
 - a. テンプレートヘッダを指定します。[コピーテンプレート] のテンプレートコードと有効期間を指定します。
 - b. [保存] をクリックします。デフォルトでは、複数の販売オーダーヘッダおよび販売オーダーラインの コピー例外 がリンクされます。
 - c. [ヘッダ例外] タブで、ヘッダ例外 (tdsls4191m000) セッションのコピー例外を指定します。

- d. [ライン例外] タブで、ライン例外 (tdsls4192m000) セッションのコピー例外を指定します。
3. 販売ユーザプロファイル (tdsls0139m000) セッションおよび販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [販売オーダーのコピーテンプレート] フィールドおよび [販売返品オーダーのコピーテンプレート] フィールドで、販売オーダーと返品オーダー用のデフォルトのコピーテンプレートをリンクします。
4. 販売オーダーのコピー (tdsls4201s000) セッションで、コピーテンプレートを指定します。
5. 販売オーダーのコピー - プロンプト (tdsls4201s100) セッションは、販売オーダーのコピー (tdsls4201s000) セッションで [コピー] をクリックしたときに自動的に開始されます。ただしこれは、使用しているテンプレートでコピー例外にリンクされている [コピーアクション] フィールドの値が [プロンプト] に設定されている場合に限りです。

注意

- このセッションは、ターゲット販売オーダーが新しい販売オーダーの場合のみ開始されます。既存のターゲット販売オーダーにコピーした場合は、プロンプトは表示されません。
- [コピー] アクションの例外が発生するまでチェックは実行されないため、フィールドに指定した値を再チェックしてください。

コピー例外とコピーアクションを持つ販売オーダーコピーテンプレートは、販売オーダーコピーテンプレートの出力 (tdsls4490m000) セッションを使用して出力できます。

重要

販売オーダーおよび関連するラインは、コピーテンプレートを使用しなくても、販売オーダーのコピー (tdsls4201s000) セッションでもコピーすることができます。この場合、コピーするオーダーデータに基づいて、標準的なコピー例外が使用されます。これらは、ヘッダデータを指定して保存するときにテンプレートヘッダにリンクされるデフォルトコピー例外です。ステップ 2 を参照してください。

オーダー優先順位 (シミュレーション)

オーダー優先順位シミュレーションを使用して、オーダーに在庫を割り当てる優先順位を計算できます。たとえば、在庫が不十分な場合に、優先順位シミュレーションを使用し、オーダー納入優先順位に従って販売オーダーをソートできます。

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー優先方法] フィールドに、オーダー優先順位の決定に使用する方法を指定できます。

- [シミュレーション]
シミュレート済オーダー優先順位は、シミュレーションコードで定義されます。シミュレーションコードには、ソート順序とソートモードが含まれます。コードごとに6つのフィールドを選択して、販売オーダーをソートできます。販売オーダーラインからデフォルトのフィールドが取得されますが、販売オーダーと取引先のフィールドも使用できます。
- [納期]
オーダー優先順位は計画納期によって決定され、シミュレーションは使用されません。

例

シミュレーションコード AA には、次のソート順序が含まれます。

- 1 = 計画在庫日
- 2 = 販売先取引先

優先順位シミュレーション (tdsls4124s000) セッションの [ソートモード] フィールドで両方のソート順序について「昇順」が設定されている場合、もっとも古い計画在庫日の販売オーダーが最初に納入されます。同じ計画在庫日のオーダーが存在する場合、アルファベット順で最初に表示される販売先取引先の販売オーダーから順に実行されます。

オーダー優先順位の指定と使用 (シミュレーション)

次のステップを実行します。

1. 優先順位シミュレーションコードは、優先順位シミュレーション (tdsls4524m000) セッションで指定します。
2. 販売オーダーの納入優先順位は販売オーダー優先順位シミュレーションの生成 (tdsls4229s000) セッションで生成します。
3. 販売オーダー優先順位 - シミュレーション (tdsls4126m000) セッションで、シミュレーションコードと品目の組合せによって販売オーダーの優先順位シミュレーションを変更できます。
4. 販売オーダー優先順位シミュレーションの処理/削除 (tdsls4226s000) セッションでシミュレート済オーダー優先順位を実際の販売オーダーに処理します。生成されたシミュレーションを削除することもできます。
5. オプションで、販売オーダー優先順位 (tdsls4129m000) 販売オーダー優先順位 セッションで実際納入のオーダー優先順位を変更します。

特急オーダー

ほとんどの会社では、顧客からの特急要求に対応しています。このような要求は、通常、特別な支払と受渡の条件を必要とします。特急要求に対応可能かどうかを判定するため、および取引先にオーダーの納期を通知できるようにするために、標準的な特急オーダーの条件を会社に指定する必要があります。

次の状況で特急オーダーが利用可能です。

- 顧客自身がオーダー入力時に特急納入を依頼
- 顧客から発行済オーダーを特急に変更する依頼を受領

マスターデータ

特急オーダーを指定するには、次の操作を行います。

1. 特急オーダーの受渡条件および特急オーダーの支払条件を販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [特急オーダーの受渡条件] フィールドおよび [特急オーダーの支払条件] フィールドで指定します。これらの条件は、特急オーダーヘッダまたは特急オーダーラインでも変更できます。
2. 利用性タイプはリードタイムに影響するため、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [利用性タイプ] フィールドで指定します。
3. 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [変更コードのメッセージ] チェックボックスがオンの場合、変更タイプ (tdsls0198m000) セッションで特急オーダーの変更タイプを指定し、変更理由 (tdsls0197m000) セッションで特急オーダーの変更理由を指定して、販売オーダーが変更された理由を指定にします。

特急オーダー作成

特急オーダーを作成するには、または既存の通常オーダーを特急オーダーに変換するには、次をクリックします。

- 販売オーダー (tdsls4100m000) セッションまたは販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの [特急オーダー] これにより、これらのセッションの [特急オーダー] チェックボックスがオンになります。あるオーダーが特急である場合、これにリンクするすべての販売オーダー (納入) ラインも特急になります。

- 販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [特急オーダーライン] これにより、このセッションの [特急オーダーライン] チェックボックスがオンになります。
- 販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [特急納入ライン] これにより、このセッションの [特急納入ライン] チェックボックスがオンになります。
- 販売オーダーライン構成要素 (tdsls4163m000) セッションの [特急構成要素] これにより、このセッションの [特急構成要素] チェックボックスがオンになります。

販売オーダーが特急オーダーとして定義されている場合、[オーダー優先順位] は 1 に設定されます。

注意

- 特急オーダーの処理を自動化する場合、オーダータイプに自動活動を指定する必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: フレキシブルな販売オーダー処理
- リンクされている倉庫オーダーを変更できる場合は、既存の販売オーダーを特急オーダーに変換できます。
- 販売オーダーヘッダの [特急オーダー] チェックボックスの設定は、リンクされている販売オーダーラインや納入ラインの該当するチェックボックスのデフォルトになります。ただし、販売オーダー (納入) ラインで、このチェックボックスの設定を変更できます。このため、別のオーダーラインや納入ラインを特急ラインとして定義できます。

制限

次のオーダーは特急にできません。

- 返品オーダー、コレクトオーダー、遡及請求オーダー、および委託請求オーダー
- 倉庫管理に発行されていない販売オーダーライン
- バックオーダーライン

特急オーダーと倉庫管理

特急オーダーが倉庫管理に発行された後に、次の処理が行われます。

- 出庫オーダーライン (whinh2120m000) セッションで [特急オーダー] チェックボックスがオンになります。出庫勧告の生成および処理時に最も高い優先順位となるのは、これらの出庫オーダーラインです。
- 出庫勧告の生成 (whinh4201m000) セッションの [特急オーダーのみ] チェックボックスがオンの場合、まずこれらのラインの購買オーダー勧告が生成されます。特急オーダーの出庫処理を高速にするには、出庫勧告処理 (whinh4200m000) セッションの [直接出庫] をクリックします。これにより、通常は出荷を確認する前に実行されるすべての出庫処理ステップがスキップされます。つまり、出荷ラインは出庫勧告の処理後に作成されます。

直送

販売オーダーまたはサービスオーダー上で、販売商品を直送するかどうかを指定できます。直送の場合は、販売オーダーまたはサービスオーダーに基づいて購買オーダーが作成されます。購買元取引先が商品を販売先取引先に直接納入するので、倉庫管理は関係しません。

直送オーダーの生成および処理の詳細は、次のトピックを参照してください。

- 直送販売オーダー (ページ 54)
- 直送サービスオーダー

直送購買オーダーの修正

販売またはサービスにより入力された生成済購買オーダー (ライン) のフィールドは無効になり、マニュアルでは変更できません。

入庫が実行されなければ、販売またはサービスにより入力された購買オーダーラインの次のフィールドを変更できます。

- [オーダー数量]
- [計画入庫日]
- [入庫住所]

直送購買オーダーの削除

販売またはサービスにより生成された直送購買オーダーを削除することはできません。直送購買オーダーラインは、調達でのみマニュアルで削除できます。ただし、サービスオーダーの状況が [発行済] になると、リンクされた直送購買オーダーを削除することはできなくなります。

注意

- 直送購買オーダーが削除された場合、削除は関連オーダー (tsmdm4500m000) セッションのサービスに送信されます。
- 直送購買オーダーラインがリンクされているサービスオーダーラインを削除することはできません。まず、直送購買オーダーラインをマニュアルで削除する必要があります。

直送購買オーダーの取消

調達では、直送購買オーダーラインを取り消すことはできません。直送購買オーダーラインを取り消すには、販売でリンクされた販売オーダーラインを取り消すか、サービスでリンクされたサービスオーダーラインを取り消す必要があります。

ただし、購買オーダーの入庫が実行された場合、リンクされた販売オーダーラインまたはサービスオーダーラインを取り消すことはできなくなります。

直送販売オーダー

直送販売オーダーを生成して処理するには、次の操作を実行します。

ステップ 1: [納入タイプ]

直送販売オーダーを作成するには

- 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで、該当の販売オーダータイプについて [購買オーダー生成可能] チェックボックスをオンにする必要があります。
- 販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [納入タイプ] フィールドが [直送] である必要があります。これらのセッションでは、次のようにして [直送] 納入タイプを選択できます。
 - オーダー数量が品目 - 販売 (tdisa0501m000) セッションの [直送数量] フィールドで定義された数量以上の場合、自動的に選択
 - [直送]
 - 品目に在庫不足が存在する場合に表示される在庫不足メニュー (tdsls4830s000) セッションから [直送オーダーの生成] を選択

ステップ 2: 購買オーダー勧告の作成

販売オーダーラインが承認されて、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションがオーダータイプ (tdsls0694m000) セッションのオーダータイプに活動としてリンクされると、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションの販売オーダーラインに購買オーダー勧告が生成されます。

このステップは、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションではなく購買オーダーの生成 (tdsls4241m000) セッションがオーダータイプに活動としてリンクされている場合には該当しません。

ステップ 3: 直送購買オーダーの作成

購買オーダーは、直送販売オーダーに生成する必要があります。購買オーダーの生成方法は、販売オーダーラインに購買オーダー勧告がすでに存在しているかどうかによって決まります。

- 購買オーダー勧告がない
購買オーダーの生成 (tdsls4241m000) セッションで、直送販売オーダーに購買オーダーを生成できます。[直送] チェックボックスをオンにして、[直送] グループボックスのフィールドを指定します。

- 購買オーダー勧告が存在する
生成済の購買オーダー勧告をLNによって自動的に購買オーダーに変換したい場合は、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [購買勧告を購買オーダーに自動変換] チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスがオフの場合、購買オーダー勧告確認 (whina3211m000) セッションおよび購買オーダー勧告転送 (whina3212m000) セッションで、購買オーダー勧告の確認と購買オーダーへの転送をマニュアルで行う必要があります。

購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの次のフィールドを使用して、直送購買オーダーが生成されます。

[直送のオーダーシリーズ]	[直送のオーダーシリーズ]
[直送のオーダータイプ]	[直送のオーダータイプ]

購買オーダーが生成されると、販売オーダーラインモニタ (tdsls4510m100) セッションの元の販売オーダーラインの状況が「直送待ち」になります。

ステップ 4: 直送オーダーの受領

事前出荷通知を使用している場合、出荷通知 (whinh3100m000) セッションで [直送ラインの入庫] をクリックした時点で、直送販売オーダー用に購買された品目の入庫が購買入庫 (tdpur4106m000) セッションに挿入されます。事前出荷通知を使用していない場合は、直送販売オーダーに対応する入庫を購買入庫 (tdpur4106m000) セッションでマニュアル指定する必要があります。

ロットとシリアルを登録する必要がある場合、ロットとシリアルの設定が完了する前に、購買入庫 (tdpur4106m000) セッションで入庫を確認することはできません。

ステップ 5: 納入に関する情報を販売に通知

納入情報を含む販売/サービスオーダーの更新 (tdpur4222m000) セッションを実行して、最終入庫のために品目、数量、ロット、およびシリアルの情報を販売に通知します。

購買入庫 (tdpur4106m000) セッションで登録される購買オーダー入庫ラインごとに、販売オーダーライン (tdsls4101m900) セッションおよび販売オーダー実際納入ライン (tdsls4106m000) セッションで販売オーダー納入ラインが作成されます。

ステップ 6: 販売先取引先への販売請求書の送付

入庫が調達に記帳され、納入情報を含む販売/サービスオーダーの更新 (tdpur4222m000) セッションで販売に送信された後に、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで請求用の販売オーダーデータを発行できます。

ステップ 7: 直送オーダーの処理

購買オーダーは納入済購買オーダーの処理 (tdpur4223m000) セッションで処理し、販売オーダーは納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションで処理します。

直送販売オーダーと関連するオーダー

- 返品オーダー
直送販売オーダーの入庫した品目を返品する場合、販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで直送販売返品オーダーをマニュアル入力する必要があります。
直送購買返品オーダーは、購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [サービス直送の返品オーダータイプ] フィールドに基づいて生成できます。次に、購買オーダータイプの通常の手順が適用されます。
- 輸送オーダー
輸送を使用して直送を管理および計画する場合、直送輸送オーダーを生成できます。詳細は、次の情報を参照してください: 直送販売オーダーについての輸送オーダーの生成 (ページ 62)
- バックオーダー
納入が販売に送信された後にオーダーよりも入庫が少ない場合、購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスの設定とは関係なく、調達で確認済バックオーダーが生成されます。
最初に販売でバックオーダーをマニュアルで確認する必要があるかどうかは、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスの設定により異なります。

注意

- 販売では、入庫が実行されるまでバックオーダー数量を変更できます。
- 直送バックオーダーの輸送オーダーを生成することもできます。
- 調達では、直送バックオーダーを取り消すことはできません。
- 調達では、直送バックオーダーを削除することのみできます。ただし、この削除は販売に送信されません。

静的クロスドッキング

在庫がない既存の販売オーダーを処理するには、入庫場所から発送確定保管場所に入庫商品をただちに移動させて出庫します。この処理をクロスドッキングと呼びます。

次のクロスドッキングタイプを使用できます。

- 静的
- 動的
- 直接資材供給

このトピックでは、静的クロスドッキングのみを扱います。

クロスドックオーダーを生成するには、次の操作を実行します。

ステップ 1: クロスドッキング販売オーダーの作成

- [納入タイプ] フィールドは、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッション、または販売オーダーライン構成要素 (tdsls4163m000) セッションで [クロスドッキング] に設定します。
これらのセッションでは、次のようにして [クロスドッキング] 納入タイプを指定できます。
 - [クロスドッキング]
 - 品目が在庫不足のときに表示される在庫不足メニュー (tdsls4830s000) セッションから [クロスドックオーダーの生成] を選択する
 - [納入タイプ] フィールドを [倉庫] に設定した販売オーダーラインに、[倉庫] チェックボックスをオンにして販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッション実行した後に選択する

販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで、該当の販売オーダータイプについて [購買オーダー生成可能] チェックボックスをオンにする必要があります。

ステップ 2: 購買オーダー勧告の作成

販売オーダーラインが承認された後に、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションがオーダータイプ (tdsls0694m000) セッションのオーダータイプに活動としてリンクされると、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションの販売オーダーラインに購買オーダー勧告が生成されます。

このステップは、販売オーダーの購買オーダー勧告の生成 (tdsls4240m000) セッションではなく購買オーダーの生成 (tdsls4241m000) セッションがオーダータイプに活動としてリンクされている場合には該当しません。

ステップ 3: クロスドッキング購買オーダーの作成

購買オーダーは、販売オーダーから生成する必要があります。購買オーダーの生成方法は、販売オーダーラインに購買オーダー勧告がすでに存在しているかどうかによって決まります。

- 購買オーダー勧告がない
購買オーダーの生成 (tdsls4241m000) セッションでクロスドッキングオーダーを生成できます。[クロスドッキング] チェックボックスをオンにし、[購買オーダー] グループボックスのフィールドを指定します。
- 購買オーダー勧告が存在する
生成された購買オーダー勧告を購買オーダーに自動的に変換するには、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションで [購買勧告を購買オーダーに自動変換] チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスがオフの場合、購買オーダー勧告確認 (whina3211m000) セッションおよび購買オーダー勧告転送 (whina3212m000) セッションで、購買オーダー勧告の確認と購買オーダーへの転送をマニュアルで行う必要があります。

購買オーダーの [計画在庫日] の計算:

販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [計画納期] + 倉庫別品目データ (whwmd2110s000) セッションの [クロスドックリードタイム]

ステップ 4: 倉庫管理へのクロスドッキングオーダーの発行

その購買オーダーを倉庫管理へ購買オーダーを発行 (tdpur4246m000) セッションで倉庫管理に発行します。

販売オーダーを販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) セッションで倉庫管理に発行します。

注意

クロスドッキングオーダーの場合、複数の購買オーダーライン詳細を 1 つの販売オーダーラインにリンクできます。または、複数の販売オーダー計画納入ラインを 1 つの購買オーダーラインにリンクできます。そのため、販売オーダー (納入) ラインに変更を加えると、購買オーダーライン (詳細) とのリンクが解除される可能性があります。

リンクされている販売オーダーラインまたは購買オーダーラインを変更すると、販売オーダーと購買オーダー間のリンクについてメッセージが表示されます。

リンクされている販売オーダーラインまたは購買オーダーラインを取り消すか削除すると、リンクは解除されます。

購買オーダー勧告が存在する販売オーダーラインを取り消すか削除すると、購買オーダー勧告は削除されます。

販売と輸送の統合

輸送パッケージを使用して輸送の要件を処理することができます。販売オーダー入力中に、適切な輸送方法を特定して選択し、販売オーダーから輸送オーダーを生成できます。

輸送オーダー管理と販売の統合

輸送オーダー管理では、次の種類の計画を利用できます。

- 概略計画: 長期的な能力計画に使用します。
- 積荷構築: 出荷と積荷の実際の実行時間計画です。商品を出荷するには、輸送オーダー管理において、特定の期間に移動しなければならない出荷が明確である必要があります。販売から輸送オーダーが作成される場合、出荷と積荷の進捗状況が交換可能になり、輸送オーダー管理と販売の間で情報の共有が可能になります。

詳細は、次の情報を参照してください: 輸送オーダー管理と販売の統合 (ページ 60)

輸送請求と販売請求間の統合

輸送レートおよび輸送費パラメータ (fmfr0100m000) セッションの [オーダーラインでのレートおよび運送業者/LSP 選択] パラメータに基づいて、販売オーダーの入力時または販売見積の入力時に、運送業者が自動的に選択されるか、マニュアルで選択されます。輸送請求額は、請求方法、品目、輸送クラス、サービスレベル、輸送タイプ、輸送手段グループなどの要因に基づいて、価格設定から計算されて決定されます。計算された請求額が、オーダー確認書に出力されます。

運送業者に支払わなければならない輸送請求を、輸送費と呼びます。取引先への輸送費の請求は、次の項目に基づいて実行できます。

- [輸送費]
- [輸送費 (更新可能)]
- [クライアントレート]

詳細は、次の情報を参照してください: 輸送請求と販売請求の統合 (ページ 64)

輸送オーダー管理と販売の統合

適切な輸送方法を特定して選択するには、マニュアルで作成、生成された販売オーダー、または変換済販売見積を発生元とする販売オーダーから、輸送オーダーを生成します。

輸送オーダーが販売オーダーから作成される場合、出荷と積荷の進捗状況が交換可能になり、輸送オーダー管理と販売間で情報の共有が可能になります。

販売見積設定

発生元が変換済販売見積である販売オーダーから輸送オーダーを生成できるようにしたり、見積が販売オーダーに変換されるときに必要な輸送関連情報が設定されるようにしたりするには、販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションで次のフィールドを指定します。

- [輸送オーダーの生成] チェックボックスをオンにします。
- 輸送オーダーで販売オーダーと同じサービスレベルを使用する場合は、[輸送サービスレベル] フィールドにサービスレベルを入力します。
- 輸送オーダーで販売オーダーと同じ運送業者を使用する場合は、[運送業者指定] チェックボックスをオンにします。
- [計画納期] フィールドに日付を入力します。この日付は、計画積荷日として考慮されます。
- [計画入庫日] フィールドに日付を入力します。

注意

販売見積ラインに [計画納期] を指定すると、輸送リードタイムが充分であるかどうか輸送によって判定されます。商品を時間内に納入できない場合、メッセージが表示されます。ユーザは [計画入庫日] を変更するか、別の運送業者を選択することができます。

輸送オーダーは見積からは生成できません。販売オーダーからのみ生成できます。販売見積の処理 (tdsls1200m000) セッションで確認済見積が販売オーダーに変換されるときに、必要な情報が販売オーダーに設定されるように、すべての輸送関連データを販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションで指定します。

販売オーダー設定

販売オーダーから輸送オーダーを生成できるようにするには、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで次の設定を適用する必要があります。

- [販売から輸送オーダーを生成] チェックボックスをオンにします。
- 輸送オーダーで販売オーダーと同じ運送業者を使用する場合は、[運送業者指定] チェックボックスをオンにします。
- 輸送オーダーで販売オーダーと同じサービスレベルを使用する場合は、[輸送サービスレベル] フィールドにサービスレベルを入力します。
- [計画済納期] フィールドに日付を入力します。この日付は、計画積荷日として考慮されます。
- [計画入庫日] フィールドに日付を入力します。

注意

次の場合、販売オーダーに生成される輸送オーダーのタイプは直接出荷になります。

- 販売オーダーの販売オーダータイプが、[出荷ごとに1オーダー]チェックボックスがオンになっている倉庫オーダータイプに関連付けられている場合
- 販売オーダーに関連付けられた輸送オーダータイプの[単一出荷オーダー]チェックボックスがオンの場合
- 販売オーダーのデフォルトの倉庫オーダータイプの[出荷ごとに1オーダー]チェックボックスがオンの場合

販売オーダーから輸送オーダーを生成

品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッションの [販売から輸送オーダーを生成] チェックボックスがオンになっていて、この品目 - 販売取引先の組合せの販売オーダーが生成された場合、承認後に、輸送オーダー生成方法を決定するために、輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000) が活動として販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッションのオーダータイプにリンクされているかどうかを確認されます。マニュアルまたは自動的に販売オーダーに輸送オーダーを生成できます。

輸送オーダーが販売オーダー (納入) ラインから生成された後の輸送オーダーの状況は [予想] になります。輸送オーダーに渡される情報は出荷関連のデータのみで、顧客要求日付、住所、出荷規則、運送業者、経路、受渡条件、計画責任などがあります。オリジナルの販売オーダー番号、位置、および連番は輸送オーダーラインで参照できます。計算された輸送費は、販売オーダー (納入) ラインに返すことができます。

輸送オーダーに積荷計画が作成されると、輸送オーダーの状況は [計画] になります。積荷計画は、輸送でのみ「実際」に変更できます。輸送オーダーの状況は、販売オーダー (納入) ラインが倉庫管理に発行されたときに [実際] になります。販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの適切なメニューで、次の項目をクリックします。

- [輸送詳細] を選択すると、輸送オーダーライン状況概要 (fmfoc2601m000) セッションを開始できます。このセッションでは、出荷と積荷に関する情報、使用する運送業者、出荷が実行される日付、出荷数量などの輸送詳細を表示できます。
- [リンク情報] をクリックすると、リンクオーダーラインデータ (tdsls4102s200) セッションが開始されるため、リンクされている輸送オーダーを表示できます。

注意

- 遡及請求オーダーまたはコストオーダーに対する輸送オーダーを作成することはできません。これらのオーダータイプでは、出荷を行う必要がないためです。
- 販売オーダーおよびリンクされている輸送オーダーの修正、ブロック、削除、または取消を行う場合、対応する輸送オーダーの状況は、[予想]、[計画]、または [実際] である必要があります。

輸送のタイプや、運送業者の利用可能性によっては、[計画入庫日] が販売オーダー (納入) ラインに指定されている日付と異なることがあります。販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの出力をクリックして「出荷日差異のあるオーダー」を選択すると、出荷日から偏差のあるオーダーの出力 (fmlbd3450m000) セッションが開始されます。このセッションでは、発生元の日付が、輸送の積荷計画の日付と異なるすべてのオーダーを示す差異のレポートを生成できます。

直送販売オーダーについての輸送オーダーの生成

販売オーダーまたは販売見積上で、販売される商品を直送するかどうかを指定できます。販売オーダーにリンクされた購買オーダーを使用して、購買元取引先は商品を販売先取引先に直接納入します。直送の場合、商品は自社の倉庫を経由しません。

直送を管理および計画するには、輸送を使用します。

直送オーダー

直送用の輸送オーダーを生成する場合、次の条件が適用されます。

- 輸送オーダーは、販売オーダーではなく購買オーダーから生成する必要があります。そのため、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [納入タイプ] フィールドが [直送] の場合、次の処理が行われます。
 - 輸送オーダーの生成 (tdsls4222m000) の活動が販売オーダーにリンクしなくなります。
 - [販売から輸送オーダーを生成] チェックボックスが、[購買から輸送オーダーを生成] チェックボックスという名前に変更されます。このチェックボックスをオンにする必要があるかどうかは、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [購買から輸送オーダーを生成] チェックボックスによって決まります。
- 輸送オーダーの生成後に販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [納入タイプ] フィールドが [直送] に設定されると、輸送オーダーは削除されます。
- 販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [輸送費請求] チェックボックスまたは購買オーダー (tdpur4100m000) セッションの [外部取引先に請求] チェックボックスをオンにできます。両方のチェックボックスをオンにすることはできません。
- [運送業者/LSP]、[経路]、[輸送サービスレベル] など、販売オーダーのフィールドが優先されます。そのため、これらのフィールドは、購買オーダーではなく販売オーダーで指定する必要があります。購買オーダーのデータは使用不可になります。
- 直送の輸送請求金額を計算するには、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [輸送費額] をクリックします。この計算には、該当の購買元取引先にリンクしている購買オフィスが使用されます。計算された輸送請求金額は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [輸送費額] フィールドに表示されます。

注意

販売オーダーラインに [計画済納期] を入力すると、商品を予定どおりに納入できる輸送リードタイムであるかどうか判定されます。輸送時間を計算するために、出荷元取引先の出荷元住所および出荷先取引先の出荷先住所が使用されます。商品が予定どおりに納入されきない場合は、[計画入庫日] を変更するか、オーダーラインで別の運送業者を選択する必要があります。

輸送オーダーが直送オーダーにリンクしている場合、日付フィールドの名前はモジュールごとに異なります。次の表を参照してください。

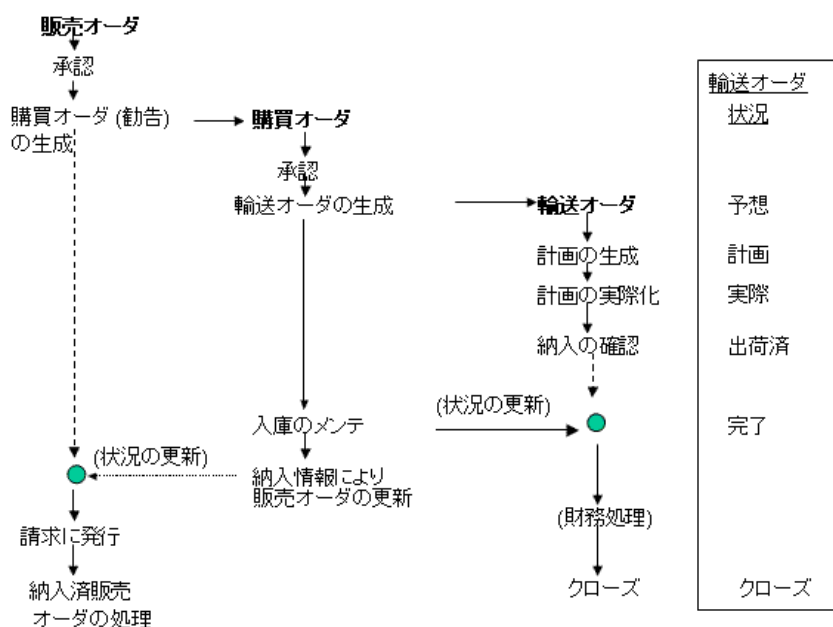
-	販売	購買	輸送	ASN
発注先から商品が 出荷された時点	計画納期	積荷日	積荷日	出荷日付
販売先取引先で商 品が入庫された時 点	計画入庫日	計画入庫日	積荷降日	計画納期

輸送オーダー

- 販売オーダーに直送購買オーダーを生成した後、輸送オーダーの生成 (tdpur4220m000) セッションでは直送オーダーに輸送オーダーを生成できます。直送販売オーダーの作成の詳細は、直送販売オーダー (ページ 54)を参照してください。
- 輸送オーダーには、購買オーダー番号および販売オーダー番号が表示されます。
- 輸送オーダーが生成されるときに、その輸送オーダーはリンクオーダーラインデータ (tdsls4102s200) セッションの販売オーダーラインおよび購買オーダーライン - リンク情報 (tdpur4502s000) セッションの購買オーダーラインにリンクします。
- 購買入庫 (tdpur4106m000) セッションで購買オーダーを受領するとき、輸送費の計算に使用される運送業者など、このセッションの輸送に関連するフィールドに値を指定する必要があります。最終入庫の後で、納入情報を含む販売/サービスオーダーの更新 (tdpur4222m000) セッションを使用して直送の情報を販売オーダーに送信する必要があります。

手順

輸送オーダーにリンクしている直送オーダーの手順を次の図に示します。



注意

直送購買オーダーの処理方法によって、次の結果になります。

- 直送購買オーダーが販売により更新された場合、リンクされた輸送オーダーが削除されます。必要な場合は、新しい輸送オーダーを生成する必要があります。
- 直送購買オーダーが調達で削除された場合、リンクされた輸送オーダーも削除されます。
- 直送購買オーダーが販売により取り消された場合、リンクされた輸送オーダーが削除されます。

輸送請求と販売請求の統合

商品の輸送責任が販売側の会社があり、この会社が商品を輸送する運送業者を雇う場合、輸送後に運送業者は販売側の会社へ請求書を送付します。会社が運送業者に支払わなければならない輸送レートは、輸送費と呼びます。輸送サービスを手配した取引先に対して、その輸送費用を請求できます。

マスタデータ

取引先に輸送を請求する場合、次のマスタデータを指定します。

- 品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000)
[輸送費請求] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスの値は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッション、または販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションの [輸送費請求] チェックボックスのデフォルトになります。
- 販売先取引先 (tccom4110s000)
[輸送に対する請求取引先] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスの値は、販売オーダー (tdsls4100m000) セッションの [請求対象の運賃] チェックボックス、または販売見積概要 (tdsls1500m000) セッションの [輸送費請求] チェックボックスのデフォルトになります。
- 請求先取引先 (tccom4112s000)
[輸送請求基準] フィールドを次のいずれかに設定します。
 - [輸送費]
オーダー、出荷、または積荷の輸送費を現在利用可能な最善の情報に基づいて決定する場合に指定します。輸送請求額は、価格設定の運送業者レート帳簿に基づいて決定されます。この費用は、見積輸送費とも呼びます。
 - [輸送費 (更新可能)]
運送業者の請求を特定の積荷または出荷と照合してから輸送費を請求する場合に指定します。基本的に、輸送請求額は、価格設定の運送業者レート帳簿に基づいて決定されます。これらの費用は、実際輸送費とも呼びます。
 - [クライアントレート]
価格設定のクライアントレート帳簿に基づいて輸送請求額を決定する場合に指定します。このレート帳簿は、特定の取引先についての輸送サービスレートを保存します。

原価加算請求

[輸送請求基準] フィールドが [輸送費] または [輸送費 (更新可能)] である場合と、原価加算金額または原価加算率を請求書に追加する場合、請求先取引先 (tccom4112s000) セッションの次のフィールドを指定します。

- [追加の割合]
輸送請求額を増加させる割合
- [追加金額]
輸送請求額を増加させる金額

請求方法

会社は、次の費用をもとに外部の取引先に輸送レートを請求できます。

- [輸送費]
- [輸送費 (更新可能)]
- [クライアントレート]

[輸送費]

輸送請求額は現在利用可能な最善の情報に基づいて計算されます (見積輸送費)。これらの輸送費は価格設定の運送業者レート帳簿から取得され、オーダー、出荷、または積荷に変更が加えられるた

びに更新されます。販売オーダー (納入) ラインについて計算された金額と一緒に、販売請求書が請求に発行されると、輸送請求書も請求に発行されます。請求では、オーダー請求書は輸送請求書と結合されて、1 つの請求書として送付されます。

販売請求書の発行の前に輸送請求書が請求に発行された場合、販売商品と輸送された商品にそれぞれ 1 通ずつ請求書が送付されます。

[輸送費 (更新可能)]

輸送のすべての積荷に基づいて、輸送費額がオーダー (納入) ライン、または見積ラインに配分されます。まず、輸送費 (見積輸送費) が価格設定の運送業者レート帳簿に基づいて決定されます。その後、運送業者の請求書が受領され、買掛金で照合されると、実際原価が指定可能になります。販売オーダー (納入) ラインに分配された金額、つまり輸送費と一緒に、販売請求書が請求に請求された後に、輸送請求書も請求に発行されます。

販売請求書の発行の前に輸送請求書が請求に発行された場合、販売商品と輸送された商品にそれぞれ 1 通ずつ請求書が送付されます。

運送業者から実際費用を受領する前に、販売オーダー (納入) ラインを輸送費で請求する場合、見積輸送費と実際費用の差異を顧客に請求できます。

注意

取引先に差異を請求する場合、追加の請求書を生成できます。請求書は、輸送請求パラメータ (fmfri0100m000) セッションの [金額が右記値より大きい場合] フィールドまたは [右記値より大きい場合] フィールドに指定したデータに基づきます。

[クライアントレート]

請求方法が [クライアントレート] の場合、輸送請求額は、輸送レートに関する確定した顧客との合意に基づきます。このため、運送業者に支払わなければならない輸送費を補てんするために、顧客に請求できます。

輸送 (請求) 金額の計算

輸送請求金額を計算するために、輸送レートおよび輸送費パラメータ (fmfrc0100m000) セッションの [オーダーラインでのレートおよび運送業者/LSP 選択] パラメータに基づいて、運送業者および対応する輸送レートが選択されます。このパラメータの値には [対話式]、[最安値]、または [優先済] があります。

注意

販売見積ライン (tdsls1501m000)、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで [計算ログの表示] チェックボックスがオンの場合、輸送費額の計算方法を輸送費額計算ログで表示できます。

[対話式]

販売オーダーの入力時や販売見積の入力時に、輸送にズームして最適な運送業者を選択できます。請求方法、品目、輸送クラス、サービスレベル、輸送タイプ、輸送手段グループなどの要因に基づいて、輸送請求金額が価格設定のレート帳簿から取得されます。

運送業者を取得するには、販売見積ライン (tdsls1501m000) セッション、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで次の操作を行います。

1. [輸送費請求] チェックボックスをオンにします。
2. [輸送費額] フィールドの後ろにある輸送費額ボタンをクリックします。輸送レート (fmfr0530m000) セッションが開始されます。
3. 最適な運送業者とサービスレベルの組合せを選択し、[OK] をクリックします。

輸送レート (fmfr0530m000) セッションで選択すると、販売見積ライン (tdsls1501m000) セッション、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの次のフィールドが自動的に指定されます。

- [運送業者/LSP]
- [輸送サービスレベル]
- [輸送費額]

[最安値] または [優先済]

販売オーダー/見積の入力時または更新時に、レートが最も低い運送業者、または優先順位が最も高い運送業者が自動的に選択されます。輸送請求金額が自動的に計算または再計算されます。

注意

- 販売見積ライン (tdsls1501m000) セッション、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで [輸送費額まとめ] チェックボックスがオンの場合、[輸送費額] は、オーダー数量が変更された場合のみ再計算されます。その他の変更は輸送費額に影響しません。
- 最終出荷の確認時には、輸送費額が変更されません。最終以外の出荷の確認時には、輸送費額が納入ライン間で比例配分されます。
- 輸送費額は、納入数量ではなく、オーダー数量およびオーダー金額に基づきます。

販売オーダーのバックオーダー処理

販売オーダー (納入) ラインに最終納入が作成されて、商品の一部のみが出荷されたか、商品がまったく出荷されていない場合に、バックオーダーが作成されます。

バックオーダーは、販売または倉庫で作成できます。

販売

販売では、バックオーダーは次のようにして作成できます。

- 留保数量をマニュアルで入力します。
- 販売オーダーに作成される直送購買オーダーは、完全納入はされません。

留保数量

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションおよび販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションでは、オーダー数量の一部をマニュアルで留保することができます。留保されたオーダー数量の一部は、必ずバックオーダーになります。

留保数量から、事前に予想バックオーダー数量を識別できます。これにより、限られた在庫を 1 件の取引先ではなく複数の取引先に割り当てることができます。販売オーダーラインを倉庫管理に発行するとき、[オーダー数量] から [留保数量] を差し引いた数量が発行されます。

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで留保数量を指定した販売オーダーラインが倉庫に発行されると、次の処理が行われます。

1. 販売オーダー (納入) ラインの最終納入が実行されると、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションでバックオーダーが生成されます。バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションでは、まだ [留保数量] が入力されていません。
2. バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッション、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [バックオーダー数量] フィールドが残りの数量で更新されます。残りのバックオーダー数量は次のように計算されます: [オーダー数量] - [納入数量]
3. バックオーダー (連番) ラインは、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションでマニュアルで確認する必要があります。または、販売オーダーパラメータ

(tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスがオンの場合、自動的にバックオーダーが確認されます。

4. バックオーダーが確認されると、次の処理が実行されます。
 - 新しい (納入) ラインが新しい連番で生成され、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [バックオーダー数量] チェックボックスがオンになります。これらのラインは通常の販売オーダーラインとして処理され、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションにも表示されます。
 - 親販売オーダーラインの [留保数量] は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで削除されます。
5. 必要な場合は、新たに作成されたバックオーダーラインの [留保数量] を指定できます。その結果、販売オーダー (納入) ラインを倉庫に発行すると、上記のステップが繰り返されます。

次の [留保数量] は指定できません。

- 約定引当方法のある品目
- 出荷規則のあるオーダー (ライン)
- 原価品目
- サービス品目
- リスト品目
- 外注品目
- 設備品目
- 一般品目
- コレクトオーダー
- 返品オーダーライン
- 納入ラインがリンクされた合計オーダーライン
- オーダー数量がゼロであるオーダーライン

注意

- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスをオンにすると、バックオーダーが自動的に確認されます。
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを倉庫に自動発行] チェックボックスをオンにすると、確認済バックオーダーが倉庫管理に自動的に発行されます。

直送オーダー

販売オーダーの直送購買オーダーが生成された場合、納入情報を含む販売/サービスオーダーの更新 (tdpur4222m000) セッションを使用して、調達から販売に納入を報告できます。

在庫量がオーダー量より少ない場合は、次のようになります。

1. [バックオーダー数量] フィールドはバックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションおよび販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで設定されます。バックオーダー数量は次のように計算されます: [オーダー数量] - [納入数量]
2. バックオーダー (連番) ラインは、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションでマニュアルで確認する必要があります。または、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスがオンの場合は、自動的にバックオーダーが確認されます。これにより、新しいラインが新しい連番で生

成され、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [バックオーダー数量] チェックボックスがオンになります。このラインは、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションにも同じ位置番号と別の連番で表示されます。

3. 確認済バックオーダーが調達に自動的に生成され、販売内のバックオーダーにリンクされます。バックオーダーは、購買オーダーライン詳細 (tdpur4101m200) セッションと確認済購買バックオーダー (tdpur4101m800) セッションで表示できます。

倉庫管理

商品が倉庫で損傷を受けた場合や商品をピックアップするトラックの積載量が不足している場合、倉庫によってバックオーダーを作成できます。

そのような場合、販売オーダーから作成した出荷数量を少なくする必要があります。発信勧告の確認前と出荷の確認前に、数量を減らすことができます。

修正済出荷の状況が [確認済] になると、次のようになります。

1. バックオーダーは [バックオーダー数量] フィールドが入力された状態でバックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションで生成され、表示されます。
2. バックオーダー (連番) ラインは、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションでマニュアルで確認する必要があります。または、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [バックオーダーを自動確認] チェックボックスがオンの場合は、自動的にバックオーダーが確認されます。
3. 確認後、新しい (納入) ラインが新しい連番で生成され、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [バックオーダー数量] チェックボックスがオンになります。これらのラインは通常の販売オーダーラインとして処理され、バックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションにも表示されます。

納入は販売オーダーライン - モニタ (tdsls4510m000) セッションおよび販売オーダー実際納入ライン/販売オーダー請求ライン (tdsls4106m000) セッションに表示されます。

倉庫は次に関するバックオーダーは作成できません。

- 出荷規則のあるオーダー (ライン)
- コレクトオーダー
- 返品オーダーライン
- 納入ラインがリンクされたオーダーライン
- オーダー数量がゼロであるオーダーライン

例

オーダー	位置	連番	オーダー済	納入済	バックオーダー
102	10	0	25	15	10
102	10	1	10	7	3
102	10	2	3	3	0

常に、親ラインのバックオーダー数量によって、次のラインのオーダー数量が決まります。

注意

処理済の販売オーダーラインでは、これらのラインが未確認の場合、リンクされているバックオーダーラインのメンテナンスや削除はできません。そのため、販売オーダーラインを処理するには、未確認のバックオーダーラインが利用可能になっていないことを確認します。

確認後、バックオーダーは次のようにして削除できます。

1. 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの [バックオーダー] タブまたはバックオーダーのメンテナンスおよび確認 (tdsls4125m000) セッションのラインを取り消します。
2. 販売オーダーライン (tdsls4101m900) または販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで、取消済のバックオーダーラインを削除できます。

販売オーダーに構成要素ラインが含まれている場合、オーダーラインではなく構成要素ラインのバックオーダーが作成されます。詳細は、次の情報を参照してください: 構成要素処理 - 構成要素ライン

分割払

分割払請求を使用すると、販売オーダのオーダ商品が納入される前または後に、合計正味額の一部の金額または何割かの金額の請求書を生成できます。分割払を作成するには、分割払ラインを販売オーダにリンクします。

分割払タイプ

分割払のタイプによって、分割払ラインが請求書に追加される時期が決まります。

- 前払請求書分割払
商品の納入前に、販売先取引先が [前払請求書] の支払が完了している必要があります。この請求書は法的文書です。
- 前払金要求分割払
[前払金要求] とは、商品の納入前に一定金額または何割かの金額を前払するように販売先取引先に要求するものです。税金は計算されず、この請求書は法的文書ではありません。このタイプの分割払は、オーダヘッダに基づく分割払にしか使用できません。
- 通常分割払
[通常] 分割払は、商品の納入前または納入時に請求します。
- 保証分割払
[保証] 分割払は、すべての商品が納入され、非保証の分割払が請求された後でのみ請求できます。

分割払手順

LN では、次の分割払手順がサポートされています。

- オーダヘッダに基づく分割払
販売オーダラインへのリンクなしで作成および請求された分割払。オーダラインの請求時に、最初の請求と最初の決済に基づいて請求済の分割払にオーダライン請求書をリンクさせる決済処理が使用されます。この手順を使用する場合には、販売オーダのすべてのラインに同じ税金コードを適用する必要があります。
- 配分に基づく分割払
分割払計画に基づいて生成される分割払。分割払が請求に転送されると、複数の請求可能ラインを作成して、分割払が各オーダラインに配分されます。これらの請求可能ラインはまとめて処理されるため、1つの請求書が顧客用に生成されます。この手順を使用する場合には、販売オーダのラインごとに異なる税金コードを適用することができます。

詳細は、次の情報を参照してください:

- オーダヘッダに基づく分割払 (ページ 74)
- 配分に基づく分割払 (ページ 78)

オーダヘッダに基づく分割払

オーダヘッダに基づく分割払は、販売オーダラインへのリンクなしで作成および請求されます。オーダラインの請求時に、最初の請求と最初の決済に基づいて請求済の分割払請求書にオーダライン請求書をリンクさせる決済処理が使用されます。この手順を使用する場合には、販売オーダのすべてのラインに同じ税金コードを適用する必要があります。

分割払のマスタデータおよび手順

分割払の指定、メンテナンス、および表示を行うには:

1. 販売オーダパラメータ (tdsls0100s400) セッションで、[分割払の導入] チェックボックスをオンにして、[分割払] タブで分割払パラメータを指定します。
2. 販売オーダを入力し、販売オーダ (tdsls4100m900) セッションの [直接決済] フィールドに [間接決済] または [分割払] を指定します。
3. 販売オーダラインを追加し、販売オーダ (tdsls4100m900) セッションで適切なメニューの [分割払] をクリックします。
4. 販売オーダ - 分割払 (tdsls4600m100) セッションで、販売オーダに分割払スケジュールを指定します。
5. 商品を納入し、すべての非保証の分割払を請求した後、販売オーダ - 分割払 (tdsls4600m100) セッションで分割払をクローズします。次に、保証分割払の請求書を作成できます。
6. 納入済販売オーダの処理 (tdsls4223m000) セッションで分割払を処理します。

注意

- 分割払スケジュール (tcms2640m000) セッションでは、デフォルトの分割払スケジュールを作成できます。これらのスケジュールは販売オーダ分割払にコピーできます。
- 前払分割払の支払額の更新 (tdsls4200m000) セッションで、前払分割払の支払額が更新されます。販売オーダに対するすべての前払分割払が全額支払われた後、販売オーダ手順を続行できます。

分割払決済

請求済分割払は、「商品」が納入され商品請求書が出力された場合に決済されます (商品の金額から差し引かれる)。決済額は、分割払で支払われる商品請求の金額を示します。

決済タイプ

決済には次のタイプがあります。

- [直接決済]
まだすべての分割払が請求されていなくても、納入済商品について請求できます。商品が請求されると、分割払ラインの請求金額が請求書の商品金額から差し引かれます。直接決済では、即時に次の項目を表示できます。
 - 請求で、商品販売による収益
 - 販売オーダー実際納入ライン履歴 (tdsls4556m000) セッションで、商品の売上高
- [間接決済]
販売オーダー分割払が終了するまで、納入済商品について請求できません。オーダーが終了されると、分割払ラインの請求金額が請求書の商品金額から差し引かれます。間接決済では以下が適用されます。
 - 販売オーダー分割払のクローズ後、商品の販売による収益を請求で表示できます。
 - 販売オーダー分割払のクローズ後、商品の取引高が販売オーダー実際納入ライン履歴 (tdsls4556m000) セッションに記録されます。まだ販売オーダー分割払がクローズされていない場合、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションでの指定に従って、販売オーダーライン履歴 (tdsls4551m000) セッションの [前払分割払の品目コード]、[通常分割払の品目]、または [保証分割払の品目] に取引高が一時的に記帳されます。

分割払 - 決済 (tdsls4513s000) セッションで分割払の決済を表示できます。請求で商品請求書が出力された後、このセッションに請求済分割払の決済が表示されます。

注意

- 保証分割払は、常に商品請求書の送付後に請求されるため、請求前に決済されます。
- (+) の販売オーダーラインを請求する場合、まず (-) の分割払が最大で合計分割払金額まで決済されます。
- (-) の販売オーダーラインを請求する場合、まず (+) の分割払が最大で合計分割払金額まで決済されます。

分割払訂正

決済額 (分割払で支払われる商品請求の金額) が、分割払訂正の計算基準です。販売オーダー分割払のクローズ時に計算される訂正額は、分割払合計請求額と決済された商品請求額の差額です。これは、次の公式で計算されます。

請求される商品の金額 - 決済される分割払金額

請求される商品金額が、決済される分割払金額よりも少ない場合にのみ、訂正分割払が作成されます。この場合、顧客への請求金額が高すぎ、反転の [訂正 - 前払請求書]、[訂正 - 前払金要求] [訂正 - 通常]、または [訂正 - 保証] が作成されます。

訂正前払分割払または [訂正 - 通常] 分割払を指定できるのは、オリジナル分割払の構成または請求を行った後のみです。このようにして、請求は常に正しい通貨情報を取得できます。商品が出荷され販売オーダー分割払がクローズされた後に保証分割払が処理されるため、[訂正 - 保証] 分割払は、オリジナル分割払が請求に発行される前に「指定」できます。オリジナルの [保証] 分割払が請求に発行される前に、[訂正 - 保証] 分割払ラインを請求に「発行」することはできません。このようにして、訂正保証の請求を構成する場合、正しい請求情報がオリジナル保証から取得されます。

マニュアルで指定された訂正分割払は、商品請求に対応して決済されます。

例

ライン	分割払タイプ	分割払金額
1	通常	200
2	通常	400
3	通常	-50
4	保証	300
販売オーダ分割払合計		850

ライン	販売オーダー金額
1	150
2	500
3	80
4	-10
販売オーダー合計	720

直接決済が適用されます。

訂正処理で次の処理が実行されます。

1. 分割払ライン 1 が請求されます。請求額 = 200
2. 分割払ライン 2 が請求されます。請求額 = 400
3. 販売オーダライン 1 が請求されます。商品金額 150 が、請求済分割払ライン 1 に決済されます。
 - 決済が必要な残りの商品金額 = $150 - (150) = 0$
 - 請求額 = 0
4. 分割払ライン 3 が請求されます。請求額 = -50
5. 販売オーダ分割払が終了します。
 - 請求が必要な商品金額 = $500 + 80 - 10 = 570$
 - 決済が必要な分割払金額 = $50 + 400 - 50 + 300 = 700$

- 訂正額 = $570 - 700 = -130$
- 6. 訂正分割払が請求されます。請求額 = -130
- 7. 保証分割払について訂正分割払ライン 5 がマニュアルで作成されます。訂正額 = -300
- 8. 訂正分割払ライン 6 が、通常分割払タイプとしてマニュアルで作成されます。訂正額 = 170
- 9. 分割払ライン 4 が請求されます。請求額 = 300
- 10. 販売オーダライン 2 が請求されます。500 の商品金額が請求済分割払に対して次のように決済されます。
 - a. 分割払ライン 3 の金額 -50。決済が必要な残りの商品金額 = $500 - (-50) = 550$
 - b. 分割払ライン 5 の金額 -300。決済が必要な残りの商品金額 = $550 - (-300) = 850$
 - c. 分割払ライン 1 の金額 50。決済が必要な残りの商品金額 = $850 - (50) = 800$
 - d. 分割払ライン 2 の金額 400。決済が必要な残りの商品金額 = $800 - (400) = 400$
 - e. 分割払ライン 4 の金額 300。決済が必要な残りの商品金額 = $400 - (300) = 100$
 - f. 分割払ライン 6 の金額 100。決済が必要な残りの商品金額 = $150 - (150) = 0$
請求額 = 0
- 11. 販売オーダライン 3 が請求されます。商品金額 80 が、マニュアルで挿入された分割払ライン 6 に決済されます。
 - 決済が必要な残りの商品金額 = $80 - (70) = 10$
 - 請求額 = 10
- 12. 販売オーダライン 4 が請求されます。すべての分割払が決済されます。請求額 = $-10 + 10 = 0$

オーダヘッダに基づく分割払の税

いくつかの分割払ラインは、販売分割払オーダにリンクできます。

次の税のデータは、分割払ラインと販売オーダラインで常に一致する必要があります。

- [課税国]
- [税金コード]
- [取引先課税国]

ただし、[前払請求書] タイプの分割払ラインの場合、その必要はありません。この分割払ラインの税金コードは、税率、課税国、取引先課税国、および元帳勘定が一致する場合でも、販売オーダラインの税金コードと異なる場合があります。

[前払請求書] 分割払の税

販売オーダ分割払 (tdsls4110m000) セッションの [前払請求書] 分割払ラインの特定の税金コードを自動的に取得するには、国別課税例外 (tctax1100m000) および国セット別課税例外 (tctax1101m000) セッションで税金コードの例外を指定できます。これらの税の例外の [オーダ発生元] は、[販売前払] に設定する必要があります。

[前払請求書] 分割払ラインを作成すると、最初に税の例外の一致について検索されます。この税の例外の税率、課税国、取引先課税国、および元帳勘定が分割払ラインおよび販売オーダラインと

一致する場合、税の例外の税金コードが分割払ラインに使用されます。一致しない場合は、販売オーダーラインの税金コードが使用されます。

注意

販売オーダー分割払 (tdsls4110m000) セッションの [前払請求書] 分割払ラインの [税金コード] は、いつでもマニュアルで変更できます。

配分に基づく分割払

配分に基づく分割払は、分割払計画に従って生成されます。分割払が請求に転送されると、複数の請求可能ラインを作成して、分割払が各オーダーラインに配分されます。これらの請求可能ラインはまとめて処理されるため、1つの請求書が顧客用に生成されます。この手順を使用する場合には、販売オーダーのラインごとに異なる税金コードを適用することができます。

分割払のマスタデータおよび手順

1. 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションにある [分割払の導入] チェックボックスをオンにして、[分割払] タブで次のパラメータを指定します。
 - [保証分割払の商品受取日必須]
 - [追加コストを分割払に含める]
2. 分割払計画 (tcms2645m000) セッションで分割払計画を指定します。
3. 請求先取引先 (tccom4512m000) セッションの [分割払計画] フィールドに分割払計画をリンクさせます。
4. 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで販売オーダーと販売オーダーラインを指定した後、次のフィールドを指定します。
 - [分割払] セッションで [分割払計画] を選択します。
 - [計画] フィールドに分割払計画を指定します。
5. 分割払計画に基づいて分割払の生成を開始する販売オーダーを分割払 (cisli8620m000) に保存します。このセッションを開始するには、販売オーダー (tdsls4100m900) セッションの 適切なメニュー にある [分割払] をクリックします。
6. 販売オーダーを承認します。これに伴って、リンクされている分割払ラインも承認されます。
7. 分割払 (cisli8620m000) セッションで分割払ラインを請求に転送します。これにより、請求可能分割払ラインが作成され、分割払が各販売オーダーラインに配分されます。
8. 請求で分割払を請求します。
9. 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) セッションで販売オーダーラインを倉庫管理に発行します。販売オーダーラインを倉庫管理に発行するには、前払分割払を支払う必要があります。
10. 販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで販売オーダーラインを請求に発行します。[保証] 分割払の場合を除いて、販売オーダーラインを請求に発行するには、配分に基づく分割払を請求する必要があります。
11. 納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000) セッションで販売オーダーを処理します。販売オーダーを処理するには、分割払をクローズする必要があります。

注意

- 分割払の請求、決済、および訂正は、請求で行います。
- 保証分割払は分割払 (cisl8620m000) セッションで請求に転送できますが、販売オーダーラインの納入と請求が終了した後に限ります。
- 販売オーダーラインを修正した場合は、リンクされている請求可能分割払ラインも更新する必要があります。ただし、請求処理が進んでいる場合は、更新することができません。決済分割払と訂正分割払は、差異の処理に使用されます。
- 商品請求書に対する前払分割払請求書の決済も各オーダーラインに配分されます。
- 商品請求書に対して分割払請求書が完全に決済されないと、その分割払がクローズした際に、訂正分割払が生成されます。

決済例

ライン	品目	数量	価格	金額	税
販売オーダー 1 イン	I1	600	1	600	10 %
販売オーダー 2 イン	I2	200	2	400	10 %

[前払請求書] 分割払は、オーダー額のうちの 20% に関して作成されます ($1000 \times 20\% = \text{EUR } 200$)。

ライン	品目	数量	価格	金額	税	合計	決済	未払額
前払い 1 1 (20%)				200	20			220

販売オーダーライン 1 と 2 の両方が出荷および請求されます。

決済:

ライン	品目	数量	価格	金額	税	合計	決済	未払額
決済請求 1 書 1 (販 売オーダ ライン 1)	I1	600	1	600	60	660	132	528
決済請求 1 書 2 (販 売オーダ ライン 2)	I2	200	2	400	40	440	88	352

訂正例

請求済分割払		販売オーダラインの変更			請求可能分割払の訂正		
連番	金額	連番	金額	ユーザアクション	連番	金額	アクション
1	100	1	100	取消	1	-100	貸方
2	200	2	250	変更	2	50	借方
		3	200	追加	3	-	アクションなし
		3	200	取消	3	-	アクションなし
		4	50	追加	4	50	借方

販売返品オーダー

商品を販売オーダーに返品する必要がある場合、返品オーダーを作成できます。返品オーダーにはマイナスの金額のみを指定できます。

返品オーダーを使用するには:

ステップ 1: 返品オーダーの販売オーダータイプを指定します。

販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで返品オーダーの販売オーダータイプを指定します。

[返品オーダー] フィールドに、次のいずれかを指定します。

- [返品在庫]
返品在庫に適用されるオーダータイプ
- [返品不合格品]
返品不合格品に適用されるオーダータイプ。販売オーダー上で納入済になっている商品を不合格にする場合に適用されます。導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの [顧客承認] チェックボックスがオンの場合にのみ、この値を選択できます。オーダータイプが [返品不合格品] の販売オーダーは、常に生成されます。

ステップ 2: 倉庫オーダータイプを販売オーダータイプにリンクする

販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションの [倉庫オーダータイプ] フィールドで倉庫オーダータイプを返品オーダータイプにリンクします。倉庫オーダータイプ (whinh0110m000) セッションの [在庫処理タイプ] が [入庫] である倉庫オーダータイプを選択する必要があります。

ステップ 3: 活動を返品オーダータイプにリンクする

販売オーダータイプ - 活動 (tdsls0560m000) セッションで、活動をオーダータイプにリンクします。

次の必須活動が返品オーダータイプに自動的にリンクされます。

- 販売オーダーの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000)
- 販売納入 (tdsls4101m200)
- オーダータイプが [返品在庫] タイプの返品オーダーの場合は、販売オーダー/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000)
- 納入済販売オーダーの処理 (tdsls4223m000)

ステップ 4: 販売返品オーダの指定

販売オーダ (tdsls4100m000) セッションの設定は次のとおりです。

1. 返品オーダの販売オーダタイプで販売オーダヘッダを作成します。
2. [オリジナル伝票タイプ] を指定します。
3. [オリジナル伝票番号] を指定します。
4. 返品オーダの返品理由を [返品理由] フィールドに指定します。
5. 返品オーダとオリジナル伝票番号の間にリンクを作成した後、適切なメニューのオリジナル伝票からコピーをクリックできます。セッションが開始され、ラインを返品オーダにコピーできます。販売オーダに追加されるラインの数量と金額はそれぞれ、マイナスのものです。必要に応じて、これらのラインを変更できます。

ステップ 5: 倉庫への販売返品オーダの発行

販売返品オーダを承認したら、オーダを販売オーダの倉庫管理への発行 (tdsls4246m000) セッションの倉庫に発行します。この場合、販売オーダ状況は [処理中] で、活動状況は「入庫待ち」となります。

ステップ 6: 請求への販売返品オーダの発行

倉庫により入庫手順が実行された後、販売オーダ状況は引き続き [処理中] ですが販売オーダライン状況 (tdsls4534s000) セッションの活動状況は「販売オーダ/スケジュールの請求への発行」となります。この場合、販売オーダ/スケジュールの請求への発行 (tdsls4247m000) セッションで販売返品オーダを請求に発行する必要があります。

ステップ 7: 販売返品オーダの処理

販売返品がオーダを請求したら、納入済販売オーダの処理 (tdsls4223m000) セッションで返品オーダを処理する必要があります。

注意

- 返品オーダにシリアル番号付品目が含まれている場合、入庫 (whinh3512m000) セッションまたは納入情報を含む販売/サービスオーダの更新 (tdpur4222m000) セッションでオーダの納入情報を更新するときに設置グループが自動的にその返品オーダにリンクされます。
ただし、次の場合、設置グループは自動的にリンクされません。
 - 販売 (返品) オーダライン上のシリアル番号付品目がサービス内の異なる設置グループにリンクされている
 - 品目が見込品目であるか、あるいは品目がサービスのみでシリアル化されている
必要に応じて、販売オーダライン (tdsls4101m000) セッションで品目を設置グループにリンクすることも、設置グループを販売返品オーダラインにリンクすることもできます。
- 商品が直送オーダで返品された場合、直送手順に関連する手順が適用されます。詳細は、次の情報を参照してください: 直送 (ページ 53)
- 仕様が販売オーダラインにリンクされており、[返品オーダ] が [返品不合格品] タイプである場合、この仕様は返品オーダラインにコピーされません。

販売オーダーの連番

連番は、1つのオーダーラインで複数の納入を実行する場合に使用されます。たとえば、バックオーダーの場合に複数の納入が実行されます。

したがって、次のようになります。

- 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションでオーダーラインを生成する際、販売オーダーラインの連番はゼロになります。すべてのフィールドを指定できます。
- オーダーラインが分割されているか、オーダーラインのバックオーダーが生成されている場合、オリジナルオーダーラインの連番はゼロのままです。分割販売オーダーラインの納入ラインの連番、またはバックオーダーラインの連番はゼロより大きくなります。

注意

- 販売オーダーライン (tdsls4101m900) セッションで、オーダーが発行される前に連番を指定できます。
- 納入は販売オーダーライン - モニタ (tdsls4510m000) セッションおよび販売オーダー実際納入ライン/販売オーダー請求ライン (tdsls4106m000) セッションで表示できます。

例

オーダーラインの追加:

連番	オーダー数量	計画納期
0	100	14/12

オーダーラインの分割:

連番	オーダー数量	計画納期
0	100	14/12
1	80	14/12
2	20	21/12

最終納入後:

連番	オーダー数量	計画納期	納入数量	バックオーダー数量
1	80	14/12	70	10
2	20	21/12	20	0
3	10	28/12	10	0

連番 3 がバックオーダーラインです。

販売オーダーラインと納入ラインの同期化

販売オーダーラインは、納入ラインまたはバックオーダーラインにリンクされます。納入ラインは、バックオーダーラインにもリンクされます。販売オーダーラインは、納入ラインまたはバックオーダーラインの総計情報を保持します。別の製品の外部オーダーラインを販売オーダーラインに接続し、販売オーダーラインを更新できます。販売オーダーラインの変更されたフィールドは納入ラインと同期され、その逆も同期されます。

同期化処理をトリガするフィールド

販売オーダーラインおよび/または納入ラインの次のフィールドに対する変更によって、同期処理をトリガできます。

日付フィールド		数量フィールド		価格と値引フィールド		金額フィールド	
ddta	計画納期	qrrq	オーダー数量	pric	価格	oamt	金額
prdt	計画在庫日	qidl	納入数量	disc	値引率	amlld	合計値引額
rdta	発行日	qbbo	バックオーダー数量	ldam	値引額	amod	オーダー値引
-	-	qicm	約定引当数量	dmse	値引マトリックス順序	damt	納入済額
-	-	-	-	dmde	値引マトリックス定義	fram	輸送費額
-	-	-	-	dmth	値引方法	-	-
-	-	-	-	dmtty	値引マトリックスタイプ	-	-
-	-	-	-	cdis	値引	-	-
-	-	-	-	dtrm	決定	-	-
-	-	-	-	elgb	適合	-	-

注意

販売オーダーラインのフィールドの変更は、必ずしも納入ラインに表示されるわけではありません。これは、価格、値引、金額などの商業データが販売オーダーラインでしか表示できないためです。納期や納入場所などのロジスティックデータは納入ラインでのみ表示できます。この結果、販売オーダーラインには、リンクされている納入ラインの商業情報の総計が保持されます。これらの商業情報は複数の納入ラインに分配されていますが、納入ラインに表示されません。ただし、納入ラインを請求に発行すると、納入ラインがリンクされている販売オーダーラインは直接請求できないため、納入ラインで非表示の商業データが使用されます。

日付フィールド

計画納期の更新

納入ラインがリンクされていない場合は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [計画済納期] を更新できます。それ以外の場合は、[計画済納期] は無効です。

ただし、次の操作が可能です。

- 販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで、リンクされた納入ラインの [計画納期] を変更します。納入ラインの最新の計画納期は販売オーダーラインの計画納期と同期されます。
- 販売オーダー (tdsls4100m900) セッションで、販売オーダーヘッダの [計画納期] を変更します。この結果、リンクされているすべての販売オーダーラインの計画納期が更新されます。ただし、納入ラインがリンクされている販売オーダーラインが更新される場合、削除される納入ラインが通知されます。納入ラインを削除しない場合は、計画納期の更新を元に戻し、必要に応じて納入ラインの計画納期を変更できます。

販売オーダーラインの計画納期は常に外部オーダーラインによって更新できます。ただし、納入ラインが販売オーダーラインにリンクされている場合、外部オーダーラインによって計画納期が更新されると納入ラインは削除されます。納入ラインの削除については、外部オーダーラインに通知されません。

販売オーダーラインの計画納期を変更できるかどうかをチェックするために、LN では、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [販売の確約可能在庫チェック] チェックボックスがオンかどうかを確認されます。このチェックボックスがオンの場合、品目が新しい計画納期で利用可能かどうかチェックされます。品目が、要求数量分利用可能でない場合、計画納期は変更できません。品目が利用可能な場合、納入ラインがあるかどうか判断されます。

注意

- リンクされている納入ラインが納入済の場合、オーダーラインの計画納期は変更できません。このため、すべての納入ラインについて販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [納期] は空である必要があります。
- 新しい計画納期が計画入庫日以降の場合、計画納期と計画入庫日が同じになります。定義済リードタイムに従って計画入庫日が再計算されません。計画入庫日は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで再計算できます。
- 外部オーダーラインが価格を変更せずに計画入庫日を変更する場合、価格フィールドを再計算できます。

計画入庫日の更新

納入ラインがリンクされていない場合は、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [計画入庫日] を更新できます。それ以外の場合は、[計画入庫日] は無効です。

販売オーダーラインの計画入庫日は常に外部オーダーラインによって更新できます。納入ラインが販売オーダーラインにリンクされている場合、納入ラインの計画入庫日も更新されます。

注意

- リンクされている納入ラインが納入済の場合、オーダーラインの計画入庫日は変更できません。このため、すべての納入ラインについて販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [納期] は空である必要があります。
- 新しい計画入庫日が計画納期以降の場合、計画入庫日と計画納期が同じになります。定義済リードタイムに従って計画納期が再計算されません。計画納期は、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、または販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで再計算できます。ただし、計画入庫日の変更によって計画納期が変更される場合、オーダーラインにリンクされている納入ラインが削除されます。

- 外部オーダーラインが価格を変更せずに計画入庫日を変更するとき、同様に計画納期も変わる場合には、価格フィールドを再計算できます。
- 納入ラインの最新の計画入庫日は販売オーダーラインの計画入庫日と同期されます。

数量フィールド

オーダー数量の更新

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [オーダー数量] を変更すると、リンクされているすべての納入ラインが削除されます。これは、有効在庫処理によって自動的に作成された納入ラインと、マニュアルで作成した納入スケジュールから生成された納入ラインの両方に適用されます。リンクされている納入ラインの 1 つが納入済の場合、または倉庫処理が大部分まで進んでいる場合、オーダー数量は変更できません。この場合、納入ラインの [オーダー数量] を修正してオーダー数量の変更を実行する必要があります。納入ラインで [オーダー数量] を変更した場合、納入スケジュールが保持され、オーダーラインで [オーダー数量] が変更されます。

外部オーダーラインのオーダー数量を変更した場合、リンクされている納入ラインの削除について外部オーダーラインには通知されません。

注意

- 新しい納入スケジュールは販売オーダーライン (tdsls4101m900) セッションで作成できます。
- バックオーダーの場合、オーダー数量と金額はオーダーラインと同期されません。これは、(親の) オーダーラインまたは納入ラインで、バックオーダーラインのオーダー数量がすでに計上されているためです。

販売単位の更新

倉庫管理が、リンクされている納入ラインをまだ処理していない場合は、オーダーラインの販売単位を更新できます。ただし、オーダーラインの販売単位を更新する場合、まだ処理されていない納入ラインは削除されます。必要に応じて、変更した販売単位に新しい納入ラインを作成する必要があります。

外部オーダーラインの販売単位を変更した場合、リンクされている納入ラインの削除について外部オーダーラインには通知されません。

価格と値引フィールド

価格フィールドの同期化

価格の同期で最も重要なのは、次のフィールドです。

- [価格]
- [値引額]
- [値引 %]

これらのフィールドが同期されると、価格と値引関連の次のフィールドも同期されます。

- [値引マトリックス定義]
- [値引マトリックス順序]
- [値引方法]

-
- [値引]
 - [値引マトリックスタイプ]
 - [決定]
 - [適合]

価格の更新

オーダーラインが作成されるとき、価格は次の項目に基づいて決定されます。

- 価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [販売価格日付タイプ] パラメータ。
このフィールドにより、価格の計算にオーダー日付、システム日付、または納期のいずれを使用する必要があるかが決まります。
- オーダー数量
- 販売単位

オーダーラインが複数の納入ラインに分割されると、オーダーラインで決定された価格はすべての納入ラインのデフォルト価格になります。計画納期を変更すると ([販売価格日付タイプ] パラメータが [納期] に設定されている場合)、または納入ラインのオーダー数量を変更すると、新しい値とオーダーラインが同期されます。販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションを閉じると、価格を再計算するかどうか質問されます。価格は、販売オーダーラインの同期されたフィールドに基づいて再計算されます。

固定額に基づく価格の更新

外部オーダーラインによって価格が設定されなかった場合、または販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [価格] フィールドに価格を指定していない場合、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [金額] フィールドに金額を入力する必要があります。この金額は、オーダーラインで固定されます。この結果、価格は販売単位ごとの価格として計算されます。

外部オーダーラインから金額が通知される場合、販売価格単位も通知されます。この結果、金額は販売価格単位別の価格に変換されます。

固定額から計算された価格と、納入ラインが同期されます。

販売価格単位の更新

外部オーダーラインを使用して変更できるのは、販売価格単位のみです。販売価格単位をマニュアルで変更することはできません。また、オーダーラインに最終納入が作成されている場合、販売価格単位は変更できません。つまり、オーダーラインとリンクされている納入ラインを納入完了にしてはなりません。

納入後の価格の更新

オーダーラインまたは納入ラインが納入されると、ラインの価格は直接更新できなくなります。納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションまたは販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションでは、納入されているがまだ請求されていないラインの価格を更新できます。

これらのセッションには、[その他の連番に適用] チェックボックスが表示されます。このチェックボックスの設定によって、次のように処理されます。

- このチェックボックスがオンの場合、このセッションで入力する修正済の価格または値引は、同じオーダーと位置の他のライン順序でも更新されます。請求へ発行済のライン順序は、スキップされます。
- 納入後の価格および値引の変更 (tdsls4122m000) セッションの [オーダーライン] の価格または値引を更新する場合、このチェックボックスは選択された状態で、変更できなくなります。
- 販売請求書ラインの価格および値引の変更 (tdsls4132m000) セッションの [オーダー/納入ライン] の価格または値引の更新時に、このチェックボックスがオンになっていると、[オーダー/納入ライン] にリンクされた [バックオーダー] ラインの価格フィールドと値引フィールドも更新されます。ただし、このチェックボックスがオンの場合に [バックオーダー] ラインの価格または値引を更新すると、この [バックオーダー] にリンクされている [バックオーダー] ラインは更新されますが、(親の) オーダーラインまたは納入ラインは更新されません。

外部オーダーラインは納入後でも価格を更新できません。

販促

販促は、顧客にプレミアム品目または追加値引を提供するために使用します。

プレミアム販促

プレミアム品目が提供可能な場合、プレミアム品目の新しい販売オーダーラインが作成されます。

販促値引

納入ラインがリンクされている販売オーダーラインで販促値引を提供できる場合、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [合計販促値引] が増やされ、[金額] が減らされます。ただし、販売オーダーラインでは請求ができません。これは、販売オーダーラインが複数の連番に分割され、販売オーダーラインに表示されるのは合計数量と金額のみであるためです。このラインに対しては、ロジスティック上の処理または会計上の処理は行いません。このため、販促値引はリンクされている納入ラインにも登録されます。納入ラインに割り当てられている販促値引は、納入ラインの [オーダー数量] によって決まります。

販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションで [金額] を計算するために次の計算ステップが実行されます。

1. 納入ラインの販促値引が算出されます。

(販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションの [合計販促値引] ÷ [金額]) × 販売オーダー計画納入ライン (tdsls4101m100) セッションの [オーダー数量]

2. 納入ラインの金額が算出されます。

販売オーダー納入ラインの [金額] - ステップ 1 の結果

販売オーダーラインを EDI または外部オーダーラインで作成する場合、販促は自動的に適用されません。EDI または外部アプリケーションで作成された販売オーダーラインを開き、マニュアルで販促を割り当てする必要があります。

構成要素

キットの一部として他の品目と組み合わせて請求される販売品目

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

連番

販売オーダー (納入) ラインまたは購買オーダーライン (詳細) の位置番号を詳細に識別するために使用される番号

請求バッチ

請求処理を行うオーダータイプとオーダーを指定します。請求バッチを実行すると、請求データが選択され、その請求バッチで指定したオーダータイプとオーダーに関する請求書が生成されます。

定期請求バッチ

定期処理用に設定された、1つまたは複数の請求バッチのセット。定期請求バッチの処理を実行すると、請求バッチに従った請求データが選択されます。

販売価格

品目が販売される価格

活動

購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならない手順。活動は、購買/販売オーダータイプについて実行しなくてはならないセッションまたはマニュアルアクションを意味します。

分割払

請求の支払を一定期間にわたって分割するために使用される、インクリメンタルな支払方法。分割払によって、オーダーされた商品が実際に納入される前または後に、販売オーダーの請求書を送ることができます。

販売スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。販売スケジュールは、頻繁に納入される長期の販売をサポートします。品目、販売先取引先、出荷先取引先、および納入パラメータが同じである要求はすべて、同じ販売スケジュールに保存されます。

リベート

販売オーダーのクローズに対する値引の一種として販売先取引先に支払われる金額

確約可能在庫

特定の日付で顧客に確約できる品目の数量を決定するために使用する技術の組合せ

確約可能在庫 (CTP) は、標準的な有効在庫 (ATP) の拡張機能を持っています。確約可能在庫は、品目の有効在庫が不十分な場合に当初計画より増産する可能性も考慮する点で、有効在庫より高度な機能を備えています。

標準的な有効在庫機能のほかに、確約可能在庫には次の機能があります。

- チャンネル有効在庫: ある販売チャンネルでの制約された調達可能性
- 製品ファミリ確約可能在庫: 品目レベルではなく製品ファミリレベルでの調達可能性に基づいた確約可能オーダー
- 構成確約可能在庫: ある品目の追加生産に使用できる構成要素が十分にあるかどうかをチェックします。
- 確約可能在庫能力: ある品目の追加生産に使用できる生産能力が十分にあるかどうかをチェックします。

略字: 確約可能在庫

確約可能在庫

次を参照してください: 確約可能在庫 (ページ 92)

有効在庫範囲または確約可能在庫範囲

有効在庫チェックと確約可能在庫チェックの実行期限

有効在庫範囲は、有効在庫チェックと確約可能在庫チェックを実行できる作業日数として表されます。有効在庫範囲または確約可能在庫範囲を超えると、有効在庫チェックまたは確約可能在庫チェックは行われず、すべての顧客オーダーが受け付けられます。

需要peg

計画オーダーまたは実際供給オーダーと、確約を表す品目所要量との関係

次のいずれかの条件が適用されない限り、ペギング所要量に対して需要ペギング供給のみ使用できます。

- pegが削除されている
- パラメータによって、未引当在庫または需要ペギング出庫オーダーの異なる仕様の在庫を発行できる
- ペギング供給
ペギング供給として、購買オーダー、計画購買オーダー、製造オーダー、計画製造オーダー、処理タイプ「転送」を持つ倉庫オーダー、または計画物流オーダーを使用できます。
- ペギング所要量
ペギング所要量として、特に、販売オーダーラインか、または製造オーダーの必須構成要素を使用できます。

関連用語: ソフトペギング

仕様

たとえば、品目が引き当てられている取引先や所有権詳細など、品目関連データの集合

この仕様を使用して、供給と需要を一致させます。

仕様は、次のうちの 1 つまたは複数に属することができます。

- 購買オーダーまたは製造オーダーなど、一定数量の品目の予測される供給
- 倉庫に保存されている特定数量の品目
- たとえば、販売オーダーなど、特定数量の品目の所要量

仕様

たとえば品目が割り当てられている取引先や所有権の詳細など、品目関連データの集まり

仕様を使用して、供給と需要を突き合えます。

仕様は、次の 1 つまたは複数に属することができます。

- 販売オーダーや製造オーダーなど、品目の数量に対する供給予定
- 扱い単位に収容される品目の特定の数量
- 販売オーダーなど、品目の特定の数量に対する要件

計画品目

オーダーシステムが [計画] の品目

これらの品目の製造、物流、または購買は、需要予測または实际需要に基づいて企業計画で計画されます。

次の方法によって、品目を計画できます。

- マスタ準拠計画。基準生産計画手法と同じです。
- オーダ準拠計画。資材所要量計画手法と同じです。
- マスタ準拠計画とオーダ準拠計画の組合せ

計画品目は次のいずれかです。

- 実際の製造品目または購買品目
- 製品ファミリ
- 基本モデル (一般品目の定義済製品バリエーション)

類似の計画品目またはファミリのグループは製品ファミリと呼ばれます。個々の品目に対する計画よりも汎用的な計画にするために、品目が統合されます。品目コードのクラスタセグメントによって表示されるコードで、計画品目が配分計画に使用されるクラスタ品目であることが示されます。

販売オーダーライン

販売オーダーは、特定の条件にしたがって顧客に納入される品目を含みます。販売オーダーのラインは、オーダーされる品目、および関連する価格合意や納期の記録に使用されます。

一般品目

複数の製品バリエーションに存在する品目。一般品目に対して製造活動を実行する前に、品目を設定して、必要な製品バリエーションを決定する必要があります。

例

一般品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (バッテリー、12 V または 220 V)
- 2色 (青、グレー)

合計 6 つの製品バリエーションをこれらのオプションで製造できます。

利用性タイプ

資源が利用可能であるアクティビティのタイプを表すコード。利用性タイプにより、単一のカレンダーに複数の作業時間セットを定義できます。

たとえば、製造には月曜日から金曜日まで利用可能で、サービスアクティビティには土曜日が利用可能であるワークセンタの場合、製造に 1 つとサービスアクティビティに 1 つの合計 2 つの利用性タイプを定義し、そのワークセンタのカレンダーにこの 2 つの利用性タイプをリンクさせることができます。

シリアル番号付品目

一意の永続シリアル番号が割り当てられた標準品目の実体。この番号により、個別の品目をライフタイム全般 (設計、製造、テスト、導入、メンテナンスなどの各フェーズ) にわたって追跡することができます。シリアル番号付品目には、他のシリアル番号付部品が含まれていることがあります。

シリアル番号付品目の例としては、自動車 (車両識別番号)、航空機 (尾翼の機体番号)、パソコンなどの電子機器 (シリアル番号) などが挙げられます。

フィジカルブレイクダウン

構成要素である品目の親子関係によって定義された、シリアル番号付品目の構成と構造。フィジカルブレイクダウンは、マルチレベル構造またはシングルレベル構造で表示することができます。

委託

在庫またはオーダにある商品の所有権のタイプ

顧客の場合、委託商品は発注先が納入する自社が所有していない、また支払を実行していない商品です。商品を使用、または販売する時に、または商品を受け取ってから一定の期間後に所有者になり、支払が生じます。

発注先の場合、委託商品は顧客に納入したが、顧客が商品を使用、または販売するまで、あるいは商品の入庫後一定期間が過ぎるまで、顧客が所有権を持たない、または支払を実行しない商品です。

商品の入庫と顧客が所有者になる日付までの期間、および支払期限は、発注先と顧客間の契約で規定されます。

関連トピック: 所有権

同義語: 使用払

倉庫手順

倉庫オーダと扱い単位を処理する手順。倉庫手順はさまざまなステップで構成されています。活動とも呼ばれるこれらのステップでは、入庫、保管、検査、出庫などを行うために倉庫オーダや扱い単位を取得する必要があります。倉庫手順は倉庫オーダタイプにリンクされているため、倉庫オーダに割り当てられます。

輸送オーダ

特定の数の商品を輸送するための命令。輸送オーダは、1 つのオーダヘッダと 1 つまたは複数のオーダラインから構成されます。

輸送オーダヘッダには、輸送オーダにリストされている商品の納期、およびこの商品を受領する顧客の名前と住所など、一般情報が含まれます。

輸送オーダラインには、輸送する品目の他に、この品目に関する明細 (数量や寸法など) が含まれます。

販売オーダ

特定の条件にしたがって取引先に品目またはサービスを販売するために使用される合意。販売オーダは、1つのヘッダおよび1つ以上のオーダラインから成ります。

取引先データ、支払条件、受渡条件などの一般オーダデータは、ヘッダに保存されます。価格合意や納期など、発注される実際の品目についてのデータは、オーダラインに入力されます。

追加コスト

追加の梱包や保険などの追加サービスに対する費用。出荷、積荷、または輸送オーダクラスタの輸送費に追加コストが付加されます。追加コストは出荷ラインまたは輸送オーダクラスタラインに課され、顧客に請求できます。これは、取引先との間で結ばれている協定によって決まります。

変更理由

変更された購買伝票 (ライン) または伝票オーダ (ライン) に割り当てることができる理由

事前出荷通知

仮請求書のフォーム。顧客は事前に出荷の詳細通知を受け取ります。

頭字語: ASN

倉庫オーダタイプ

倉庫オーダのタイプを識別するコード。倉庫オーダタイプにリンクしたデフォルトの倉庫手順は、その倉庫オーダタイプが割り当てられた倉庫オーダの倉庫での処理方法を決定します。ただし、デフォルトの手順は、倉庫オーダごと、またはオーダラインごとに修正できます。

取引先

顧客または発注先などの、商取引を行う当事者。顧客や発注先となる部署を組織内で取引先として定義することもできます。

取引先の定義には次の情報が含まれます。

- 組織の名前と主要な住所
- 使用される言語と通貨
- 課税および法定 ID データ

取引先の担当窓口担当者を取引先とします。取引先の状況によって、処理が実行可能かどうかが決まります。処理のタイプ (販売オーダ、請求書、支払、出荷) は取引先の役割で定義します。

販促

選択した品目の事前定義済のオーダレベルに基づいて販売オーダに追加の値引、割引、またはプレミアムを適用すること。販促の基本タイプには、オーダレベルとラインレベルの2種類があります。

販売オーダタイプ

オーダ手順の一部であるセッション、およびこの手順が実行される方法および順序を決定するオーダタイプ

変更タイプ

変更された購買伝票 (ライン) または販売伝票 (ライン) の変更のタイプを示すインジケータ

オーダー優先順位シミュレーション

在庫をオーダーに割り当てる優先順位を計算できるようにするシミュレーション活動

販売見積

発注先が見込購買者に提案した商品またはサービスの価格計算書、販売条件、記述、入札。顧客データ、支払条件および受渡条件はヘッダに含まれます。実際の品目についてのデータは見積ラインに入力されます。見積依頼への回答として与えられる場合、入札は通常、販売申込とみなされます。

遡及請求

前に請求済の品目について、価格の再交渉に基づいて貸方または借方請求書を発行する処理。契約または個別のオーダーやスケジュールにリンクされたオーダーまたはスケジュールに対して遡及請求を実行できます。

同義語: 遡及請求

遡及請求

次を参照してください: 遡及請求 (ページ 97)

カタログ

分類構造の最高レベル。カタログには 1 つまたは複数の分類が含まれ、各分類には品目または小分類が含まれます。カタログを別の分類のメンバーにすることはできません。

顧客承認

業務規則の 1 つ。販売オーダーに基づいて納入される商品の請求書を発行するには、この規則に沿って顧客の承認を得ておく必要があります。納入済商品が承認された時点で、その商品の所有権が発注先から販売先取引先に変更されます。

直送

販売元が商品を購買元取引先からオーダーする処理。購買元取引先はまた、商品を販売先取引先に直接納入しなくてはなりません。販売オーダーまたはサービスオーダーにリンクされた購買オーダーを使用して、購買元取引先は商品を販売先取引先に直接納入します。商品は自社の倉庫から納入されないの、倉庫管理は関係しません。

販売業者管理在庫 (VMI) のセットアップでは、顧客倉庫の購買オーダーを作成することで直送が達成されます。

販売元は次の理由で直送を決定できます。

- 利用可能在庫の不足
- オーダー数量が時間内に納入できない
- オーダー数量を自社で輸送できない
- 原価および時間が保存される

製品バリエーション

構成可能品目の一意の構成。バリエーションは構成処理に由来し、特徴オプション、構成要素、作業などの情報を含みます。

例

構成可能品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (電池、12 V または 220 V)
- 2色 (青、灰)

これらのオプションから合計 6 つの製品バリエーションが生じます。

特急オーダー

できるだけ速やかに実行する必要がある、通常、特別な支払条件および納入条件を必要とするオーダー

バックオーダー

顧客オーダー不足分、または後日に納入される部分。品目に対する需要で、在庫が不十分であるため需要を満足できないもの

返品オーダー

返品出荷がレポートされる購買オーダーまたは販売オーダー。返品オーダーにはマイナスの金額のみが記入できます。

代替品目

標準品目がない、納入されていない、または置換されている場合に、標準品目の代用品となる品目

価格ステージ

価格交渉処理のフェーズに基づく価格の分類。価格ステージを使用して、会社は、制約があるオーダー処理を継続しながら価格を交渉できます。価格ステージに適用されるオーダー処理の制約はリンクされたブロック定義で指定されます。

例

価格ステージ	タイプ	ブロック定義
PS1 価格ステージ見積	購買	004 発行のブロック
PS2 価格ステージ暫定	購買	005 入庫のブロック
PS3 価格ステージ最終	購買	- -
PS5 価格ステージ見積	販売	010 オーダー入力のシグナル

クロスドッキング

入庫商品を出庫のために、入庫場所から発送確定保管場所に即座に移動する処理。たとえば、この処理は利用可能な在庫がない既存販売オーダーを処理するために使用します。

次の 3 タイプのクロスドッキングが識別されます。

- [静的]
このタイプのクロスドッキングを開始するには、販売で販売オーダーから購買オーダーを生成する必要があります。
- [動的]
このタイプのクロスドッキングは倉庫管理で利用でき、次の特徴があります。
 - 在庫不足に基づいて実行する
 - 商品の入庫時に明示的に定義する
 - 臨時的に作成する
- [直接資材供給]
このタイプのクロスドッキングを倉庫管理でを使用して、倉庫のクラスタにおける需要を満たすことができます。これは以下を基準にします。
 - 入庫
 - 手持在庫

注意

販売から生成されるクロスドックオーダーは、倉庫管理で作成されたクロスドックオーダーと同じ方法でメンテナンスできますが、販売オーダー/購買オーダーリンクは例外で、変更することはできません。

次を参照してください: 直接資材供給

ASN

次を参照してください: 事前出荷通知 (ページ 96)

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

運送業者

輸送サービスを提供する組織。積荷構築、輸送オーダークラスタ、輸送コスト計算、および請求に運送業者を使用するには、共通情報で運送業者を運送業者と購買元取引先の両方として定義する必要があります。運送業者は運送業者とも呼ばれます。

同義語: ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

運送業者

輸送サービスを提供する組織。デフォルトの運送業者を出荷先および出荷元の両取引先にリンクさせることができます。さらに、運送業者でソートした梱包リストの販売オーダーおよび購買オーダーを出力することができます。

オーダー処理および請求処理では、必ず運送業者を取引先として定義してください。

同義語: 運送業者, ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

運送業者

次を参照してください: 運送業者 (ページ 100)

運送業者

出荷先取引先への商品の輸送責任を負う会社

保証

構成要素が保証期間内において合意した明細どおりに機能しない場合に、その構成要素の修理を無料または割引料金で行う保証

購買オーダータイプ

オーダータイプにより、オーダー手順の一部であるセッション、そしてこの手順が実行される方法および順序が決まります。

支払条件

商品またはサービスがオーダーされた日付からこれらの支払が行われた日付までの平均日数

信用評価

顧客の財務力と発注先の信頼度に従って、顧客と今後の見込み顧客を分類するシステム

信用評価は請求先の取引先にリンクされ、販売オーダーを処理するときに、または信用チェックを繰り返す必要のあるときに実行するアクションなどの詳細をいくつか定義します。

元帳勘定

財務取引を記録したり、レポートや分析用に取引金額を累計する目的で使用する登録。元帳勘定では、取引を収益、費用、資産、負債などに分類します。

同義語: 勘定科目

グローバル貿易コンプライアンス

グローバル貿易を行うために必要な国際規則、規制、ライセンスなどのグローバル貿易コンプライアンスデータを規定、監査、および自動化できる機能。このデータは、品目、取引先、輸入および輸出伝票がコンプライアンスチェックに合格するかどうかを確認するために使用されます。たとえば、オーダーまたは出荷の伝票でコンプライアンスチェックの結果が不合格の場合、その伝票をブロックすることができ、ユーザはこれに対処する必要があります。

グローバル貿易コンプライアンスは、取引の遅延、追加コスト、輸入または輸出規制に抵触した場合の罰則のリスクを低減します。

マトリックス定義

価格設定マトリックスが価格、値引、販促、または輸送レートの決定に使用する要素 (マトリックス属性) のグループを定義します。

たとえば、家具販売店を営んでいて、次の 2 つの要素に基づいて販売価格をメンテナンスするとします。

- 販売する特定品目
- 支払の処理方法

この場合、マトリックスタイプは [販売価格]、マトリックス定義は「Furni (この名称はユーザ定義可能)」、マトリックス属性は [品目] および [支払方法] です。

クライアントレート帳

取引先に対して輸送協定をメンテナンスできる輸送レート帳

運送業者レート帳

運送業者に対して運送協定をメンテナンスできる輸送レート帳

追加コストセット

複数の追加コストラインおよびシナリオの保存が可能になるコード。コストセットは品目、取引先、または価格リストにリンクできます。またこれらを経由してオーダーや出荷にもリンクできます。

計画積込日

出荷元場所で積込が計画されている日付および時刻

ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

次を参照してください: 運送業者 (ページ 100)

ロジスティックサービスプロバイダ (LSP)

次を参照してください: 運送業者 (ページ 100)

資材価格

資材の価格。以下場合があります。

- 資材基準価格 (資材実際価格が (まだ) 適用されない場合)
- 次の構成要素の合計: 資材基準価格 + 資材価格付加費用 + 資材価格付加費用原価 (資材実際価格が適用される場合)

勘定科目

次を参照してください: 元帳勘定 (ページ 101)

設置グループ

同じロケーションで、同じ取引先が所有する一連のシリアル番号付品目。シリアル番号付品目を設置グループに集めることで、まとめてメンテナンスすることができます。

サービス契約

サービス組織と顧客の間で交わす特定の期間の販売契約。メンテナンス対象の構成 (設置グループまたはシリアル番号付品目)、適用範囲条件、および合意価格を示します。

製品構造

半組立品を形成するために構成要素がまとめられたステップで、このステップが完成品になるまで続くもの

製品構造は、マルチレベル部品表によって定義され、工順データとの組合せで定義されることもあります。

組立オーダ

1 つ以上の組立ラインで製品を組み立てるためのオーダ

支払期限超過請求書

長期間、未払状態の請求書

ブロック定義

オーダプロセスをブロックする必要がある、またはシグナル生成メッセージを表示する必要がある時点を、関係する理由とともに示します。

構成可能品目

特徴およびオプションを選択できる品目であり、この品目に対するすべての活動を実行できるように事前に構成しておく必要があります。構成可能品目が一般品目の場合は、構成後に新しい品目が作成されます。製造品目または購買品目の場合は、品目コードとオプションリスト ID で構成が識別されます。

- デフォルト供給ソースが [組立] 品目および [一般] 品目に設定されている [製造] 品目は、常に構成可能品目になります。
- 購買スケジュールが使用中の [購買] 品目は、場合によっては構成可能品目になることもあります。
- 構成可能 [購買] 品目は、組立管理でのみ使用できます。

与信限度額

自社が引き受ける、または請求先取引先に対して保険をかける財務上の最大リスク、または請求元取引先が相手に対して受諾する財務上の最大リスク

オーダを作成するときに、作成した合計金額と請求したオーダが与信限度額を超えていないかが常時チェックされます。限度額を超えると、警告メッセージが表示されます。

分割払計画

オーダの分割払を生成する基になる計画。この計画には、分割払を請求する時期、生成する必要がある分割払のタイプ、分割払の割合など、分割払の構成データが含まれます。分割払は [比例配分] 方法に基づいて生成されます。つまり、分割払の割合がオーダのすべてのオーダラインに比例配分されます。

計画はオーダの請求計画として見なされるため、分割払の生成、メンテナンス、決済、訂正は請求で行います。

オーダ残高

未処理オーダの残高

ペグ

プロジェクトと予算、要素と活動の組合せ。プロジェクトの原価、需要、供給の識別に使用されます。

税金コードの例外

標準税金コードの計算結果から生じる値以外の税金コードや課税国および取引先課税国を定義する取引詳細のセット

受渡条件

商品の納入方法に関する取引先との合意事項。関連情報が、各種のオーダ文書に出力されます。

デフォルト供給ソース

デフォルトで品目を供給するソース。購買オーダーまたはスケジュール、製造オーダーまたはスケジュール、組立オーダー、または倉庫オーダーを使用して品目を供給できます。

デフォルト供給ソースにより、どのタイプのオーダーを使用して品目を供給するかが決まりますが、一般的にはこのデフォルトに代えて、別のソースを指定できます。

ロットおよびシリアルセット

販売オーダーライン上の品目の、ロットコードおよび/またはシリアル番号のリスト。ロットおよびシリアルセットは、請求または販売後サービスで使用できます。

追加コストライン

追加コストとしてオーダーまたは出荷にリンクできる原価品目を含みます。追加コストラインの例として、オーダー金額が一定の値より少ない場合にオーダー原価に追加される管理費や、販売/購買商品の総重量が一定の値を超える場合にオーダーに追加される輸送費があります。

コピー例外

ソースオーダーからターゲットオーダーに自動的にコピーされず、コピーアクションを定義する必要があるフィールド

総マージン

販売利益から固定および変動の両方の製造原価をすべて差し引いた値

販売オーダー分割払

即時には支払われず、正味額合計の分割金額または割合ごとに支払われるオーダー。

オーダーされた商品が実際に納入される前または後に、正味額合計の割合について請求書を送付できます。この場合、販売オーダーに複数の分割払ラインが追加されます。分割払ラインは、金額といくつかの追加詳細から成ります。

請求された分割払は、商品が納品され請求されたときに決済されます (商品金額から差し引かれます)。

マトリックス属性

価格、値引、販促、または輸送レートの定義に使用される要素のリスト。マトリックス属性のグループはマトリックス定義とタイプで識別されます。

たとえば、家具販売店を営んでいて、次の 2 つの要素に基づいて販売価格をメンテナンスするとします。

- 販売する特定品目
- 支払の処理方法

この場合、マトリックスタイプは [販売価格]、マトリックス定義は「Furni (この名称はユーザ定義可能)」、マトリックス属性は [品目] および [支払方法] です。

価格設定マトリックスで、そのマトリックス属性の値を指定します。

マトリックス優先順位

マトリックスタイプについて、マトリックス定義が検索される順序

オーダ確認

リストされた受渡条件にしたがって、販売先取引先への商品の販売を確認する文書

プレミアム

販促の一環として顧客に提供される無料品

見積ライン

提案された品目と同様に関連した価格合意と数量を記録するために使用するライン。販売見積は1つ以上の見積ラインを含んでいます。

目標価格

マージン管理計算の基準となる価格

目標価格は次のいずれかの価格になります。

- 販売価格
- 希望小売価格
- 品目の標準原価
- 価格設定の検索アクション後に検索された販売価格

目標価格および販売価格は、品目ファイルに登録されたマージン制限に関して評価されます。

カスタマイズ品目

特定のプロジェクトについての顧客仕様で生産された品目。カスタマイズ品目は、カスタマイズ部品表やカスタマイズ工順を持つことができ、標準品目としては通常は使用できません。ただし、カスタマイズ品目は標準品目または一般品目から派生できます。

プロジェクト構造

プロジェクト構造はメインプロジェクトに所属するサブプロジェクトを示します。状況が受注設計の大規模なプロジェクトがある場合に使用すると効果的です。

プロジェクト構造はネットワーク計画で重要になります。これは、サブプロジェクトの開始日および終了日がメインプロジェクトの活動の計算済開始日および終了日に依存できるためです。

サブプロジェクトの原価は、プロジェクト計算で関連するメインプロジェクトに総計されます。

プロジェクト構造は、[予算] 以外のタイプのプロジェクトに適用します。

プロジェクト構造を削除できるのは、メインプロジェクトの状況が[フリー]または[アーカイブ済]の場合のみです。

標準品目

通常利用できる購買品目、資材、半組立品、または完成品

顧客の指定に応じた特定プロジェクトに対して製造される品目以外の品目は、すべて標準品目として定義されます。反対の用語はカスタマイズ品目です。

部分組立品

デフォルト供給ソース [組立] を含む品目。部分組立品の製造は、組立オーダーで管理されます。組立オーダーは組立ラインで実行されます。

注意

組立の品目タイプは、[一般]、[製造]、または[設計モジュール]にすることができます。

CPQ コンフィギュレータ

LNに統合されて品目を構成するアプリケーションです。この統合は、Webユーザインタフェースの一部としてのみ実行できます。

次を参照してください: 価格見積の構成

信用再審査期間

請求先取引先は、この期間内に請求額を支払う必要があります。この期間は、いわゆる超期日請求書期間として確認することができます。

使用払

次を参照してください: 委託 (ページ 95)

購買オーダー勧告

経済在庫および品目の発注点をもとにした推奨。購買オーダー勧告は確認後、転送して実際の購買オーダーに変換する必要があります。

索引

- 構成要素, 25, 91
 - 適切なメニュー, 91
 - テンプレート, 45
 - 履歴
 - 販売オーダー, 17
 - 連番, 83, 91
 - 請求
 - 販売データの変更, 35
 - 請求バッチ, 91
 - 定期請求バッチ, 91
 - 販売価格, 91
 - 活動, 91
 - 分割払, 73, 91
 - オーダーヘッダに基づく, 74, 78
 - 税, 77
 - 販売スケジュール, 92
 - リポート, 92
 - 有効在庫, 24
 - 確約可能在庫, 24, 92
 - 有効在庫範囲または確約可能在庫範囲, 92
 - 需要ペグ, 93
 - 仕様, 93, 93
 - 計画品目, 94
 - 販売オーダーライン, 94
 - 同期, 84
 - 一般品目, 94
 - 輸送, 59
 - 需要ペギング, 24
 - 輸送管理, 62, 64
 - 利用性タイプ, 94
 - 販売
 - 輸送オーダー管理との統合, 60
 - 輸送との統合, 59
 - シリアル番号付品目, 95
 - フィジカルブレイクダウン, 95
 - 委託, 27, 95
 - 倉庫手順, 95
 - 輸送オーダー, 22, 95
 - 販売オーダー, 96
 - オプション処理, 21
 - グローバル貿易コンプライアンス, 37
 - バックオーダーの処理, 69
 - ブロック, 21, 32
 - ブロック解除, 21
 - 引当, 24
 - 概要, 13
 - 手順, 15
 - 処理, 13
 - 追加コスト, 21
 - 特急, 51
 - 返品, 81
 - 輸送オーダーのリンク, 22
 - 優先順位, 49
 - 追加コスト, 21, 96
 - オーダー基準, 28
 - 出荷基準, 29
 - プロジェクトペギング, 26
 - 変更理由, 96
 - 顧客支給資材, 27
 - 事前出荷通知, 96
 - 倉庫オーダータイプ, 96
 - 取引先, 96
 - 販促, 25, 96
 - シミュレーション
 - オーダー優先順位, 49
 - 販売オーダータイプ, 96
 - 変更タイプ, 97
 - オーダーブロック, 32
 - オーダー優先順位シミュレーション, 97
 - 優先順位シミュレーション, 28
 - 販売見積, 97
 - 遡及請求, 26, 97
 - カタログ, 97
 - 顧客承認, 97
 - ブロック
 - 販売オーダー, 21
 - ブロック解除
 - 販売オーダー, 21
 - 販売データ
 - 請求へ発行後の変更, 21
 - 直送, 22, 53, 62, 97
 - サービスオーダー, 22
 - 販売オーダー, 22, 54
 - 製品バリエーション, 23, 98
-

販売, 39
特急オーダー, 23, 51, 98
有効在庫 (ATP), 24
確約可能在庫 (CTP), 24
バックオーダー, 24, 69, 98
分割払オーダー, 25
返品オーダー, 26, 81, 98
代替品目, 26, 98
販売後サービス, 26
 販売とサービスの拡張統合, 46
クロスドッキングオーダー, 27
コピーテンプレート, 27, 47
価格ステージ, 28, 99
販売データの変更
 請求, 35
クロスドッキング, 57, 99
輸送管理の統合, 62
直送販売オーダー, 62
販売管理
 輸送請求との統合, 64
留保数量, 69
分割払ライン, 73
決済, 73
販売返品オーダー, 81
オーダー優先順位
 シミュレーション, 49
販売オーダー履歴, 17
ASN, 96
電子データ交換 (EDI), 100
運送業者, 100, 100, 100
輸送オーダー管理, 60
保証, 100
購買オーダータイプ, 100
支払条件, 100
信用評価, 100
元帳勘定, 101
グローバル貿易コンプライアンス, 101
 販売オーダー, 37
マトリックス定義, 101
クライアントレート帳, 101
運送業者レート帳, 101
追加コストセット, 101
計画積込日, 101
ロジスティックサービスプロバイダ (LSP), 100, 100
資材価格, 102
勘定科目, 101
税, 77
設置グループ, 102
サービス契約, 102
製品構造, 102
組立オーダー, 102
支払期限超過請求書, 102
ブロック定義, 102
構成可能品目, 103
与信限度額, 103
分割払計画, 103
オーダー残高, 103
ペグ, 103
税金コードの例外, 103
受渡条件, 103
デフォルト供給ソース, 104
ロットおよびシリアルセット, 104
追加コストライン, 104
コピー例外, 104
総マージン, 104
販売オーダー分割払, 104
マトリックス属性, 104
マトリックス優先順位, 105
オーダー確認, 105
プレミアム, 105
見積ライン, 105
目標価格, 105
直送オーダー, 53
オーダーヘッダに基づく分割払, 74, 78
分割払の税, 77
販売オーダーラインと納入ラインの同期化, 84
納入ライン
 同期, 84
カスタマイズ品目, 105
プロジェクト構造, 105
標準品目, 106
部分組立品, 106
CPQ コンフィギュレータ, 106
信用再審査期間, 106
使用払, 95
購買オーダー勧告, 106
